

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	あやかりの杜滞在型施設活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
	担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容		長期滞在型宿泊施設やキャンプ場等がある「あやかりの杜」を活用した野外活動や沖縄の自然・伝統文化の学習等を実施する。					
実施方法		直接実施	委託	補助	負担	その他 ()	
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,000	5,477			
		(b)予算現額	2,000	5,477			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	2,000	5,477			
	B.執行済額		2,000	5,028			
	うち交付金充当額		1,600	4,022			
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	91.8%			
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。なお、不要額449千円は委託費の精算によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	体験交流事業:6事業	目標	(2事業)	(6事業)	()	()	
		実績	2事業	6事業			
	[参考指標]	目標	()	(-)	()	()	
実績			-				
達成状況説明	平成24年度より事業の数を6事業へ増やした事など、多様な事業を開催したことから関心が集まり目標以上の参加者を募ることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	体験交流人口:150人	目標	()	(50人)	(150人)	()	()
		実績		104人	273人		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	伝統文化事業及び体験交流事業の6事業を実施し、本事業2年目ということもあり、村内外から多くの関心を集め、地域住民や観光客、村内の子ども会等、予想を上回る参加者を募る事ができ、伝統文化の継承や交流を深めることができた。						

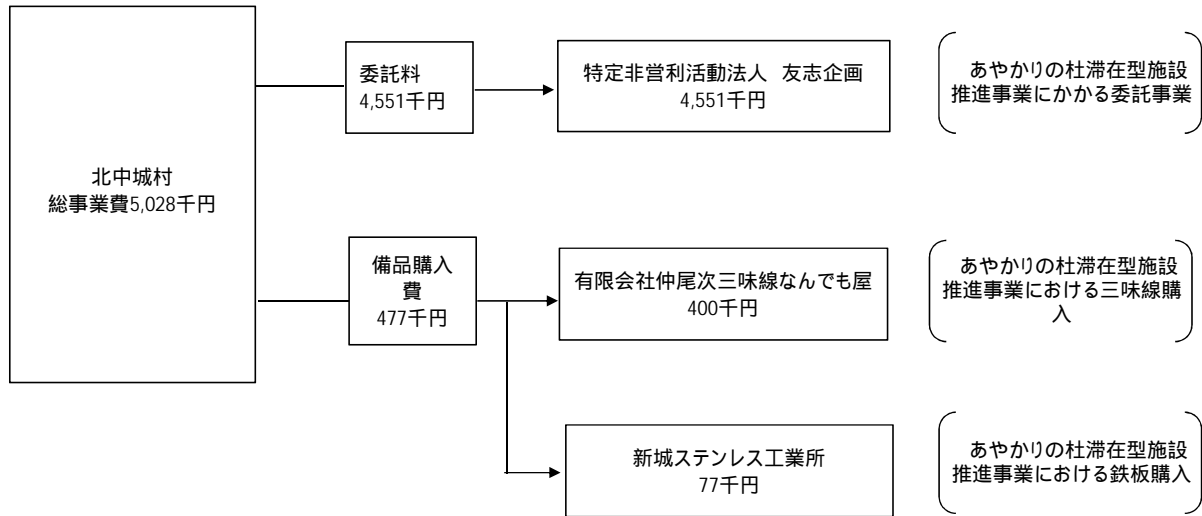
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業数を増やした事もあり多くの参加者が受講するに至った。 ・事業内容については、参加者の多くが満足感を得ており、学んだ知識を地域や家庭、学校においての野外活動等で活かせるスキルとなっている。 	<p>事業の展開については地域の意見を聞き地域の資源を活かした特色のある事業を今後も取り入れる。</p>

今後の取り組み方針

・あやかりの杜の滞在型の施設及びキャンプ場の特色を活かした事業を行い、広報活動を充実させ施設利用者の増に繋げる。
 ・地域の特色を活かした魅力ある沖縄観光の一角を担えるよう、観光客等の確保と情報発信を目的に本施設の存在を村内外へアピールできる事業へと展開する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,028	5,028	4,022	1,006	



資金の 用途の 流れ、 点検、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・受託事業者は施設の指定管理者であり、当該施設に熟知していることを勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ・予算規模及び費目・使途については、事業目的に即し適正であると考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	歴史文化散策路ネットワーク整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
	担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり -1-(1)	
事業内容	誘客を図るため、世界遺産「中城城跡」を核として、村内にある歴史文化遺産の活用と、村の魅力を発信するため、徒歩で周遊できる散策遊歩道整備の実施設計を行った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,179	17,109			
		(b)予算現額	10,179	17,109			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		10,179	17,109			
	B.執行済額		9,756	14,073			
	うち交付金充当額		7,804	11,258			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		95.8%	82.3%			
予算の状況の説明		散策路整備の重点地区である「島袋・比嘉」地区の基本計画策定を見送ったための予算残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	「喜舎場・仲順」地区の実施設計の完了	目標	喜舎場・仲順地区の実施設計の完了	()	()	()	
		実績	喜舎場・仲順地区の実施設計の完了				
	「島袋・比嘉」地区の基本計画の策定	目標	島袋・比嘉地区の基本計画の策定	()	()	()	
		実績	策定未完了				
達成状況説明	「喜舎場・仲順」地区において、散策路整備にかかる里道4本、散策案内のためのカラー舗装、文化財等の案内板表示の設計を行った。 「島袋・比嘉」地区の散策路に係る基本計画については、アワセゴルフ場跡地の開発が平成25年度から着手され、平成27年度の「まちびらき」を予定していることから、跡地開発の進捗に併せて、計画を策定していく必要があることから、今年度の基本計画策定は見送った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	「喜舎場・仲順」地区の実施設計の完了 「島袋・比嘉」地区の基本計画の策定	目標	()	重点地区の計画策定	「喜舎場・仲順」地区の実施設計の完了	()	()
		実績		重点地区の計画策定	「喜舎場・仲順」地区の実施設計の完了		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	「喜舎場・仲順」地区においては、実施設計をもとに魅力ある散策路整備を推進する。 「島袋・比嘉」地区の散策路に係る基本計画については、アワセゴルフ場跡地の開発が平成25年度から着手され、平成27年度の「まちびらき」を予定していることから、跡地開発の進捗に併せて、計画を策定していく必要があることから、今年度の基本計画策定は見送った。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・「島袋・比嘉」地区においては、既存集落と新市街地となるアワセゴルフ場跡地地区を結ぶ散策整備を想定していたが、本村の観光・健康・防災拠点となるアワセゴルフ場地区の観光誘客等の機能に加え、健康増進、避難路機能を有した散策路計画が求められている。</p> <p>・アワセゴルフ場地区内の散策路整備において、事業主である区画整理組合との協議を行うことができなかったため、「島袋・比嘉」地区の散策路整備基本計画の策定には至らなかった。</p>	<p>・「喜舎場・仲順」地区については、実施設計をもとに整備を進め、整備後の散策路活用のソフト事業(ウォークラリー、歴史散策等)の立案を検討する。</p> <p>・「島袋・比嘉」地区の散策路整備については、アワセゴルフ場地区に建設予定の体育施設と連動を図る必要があり、その整備に合わせた計画を検討する。また、跡地全体の魅力あるまちづくりのため、区画整理事業組合と連携を図り、当該地区の開発と併せた散策路整備を協議する。</p>

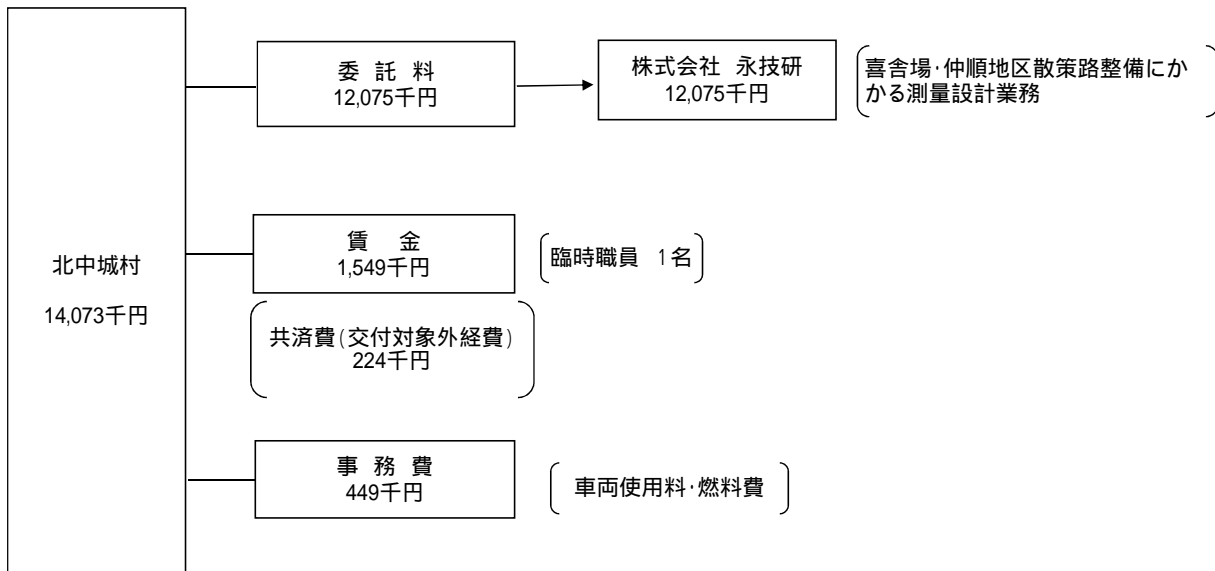
今後の取り組み方針

・「喜舎場・仲順」地区の散策路整備については、視覚的な案内誘導となるカラー舗装や、里道整備を進めるとともに、スマートフォン・PCタブレットで利用可能なAR(現実仮想)技術を活用したルート案内や文化財紹介等のソフト事業を展開していく。

・「島袋・比嘉」地区の散策路整備については、「観光振興」「健康増進」「防災機能拡充」の観点から、区画整理事業組合または地域住民、進出予定の企業等と協議を行うとともに、今後建設予定の防災機能も有した体育施設に連携した計画を策定する

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,297	14,073	11,258	2,815	224



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・受託事業者は指名競争入札方式により選定しており、妥当であったと考える。</p> <p>・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を確認の結果適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

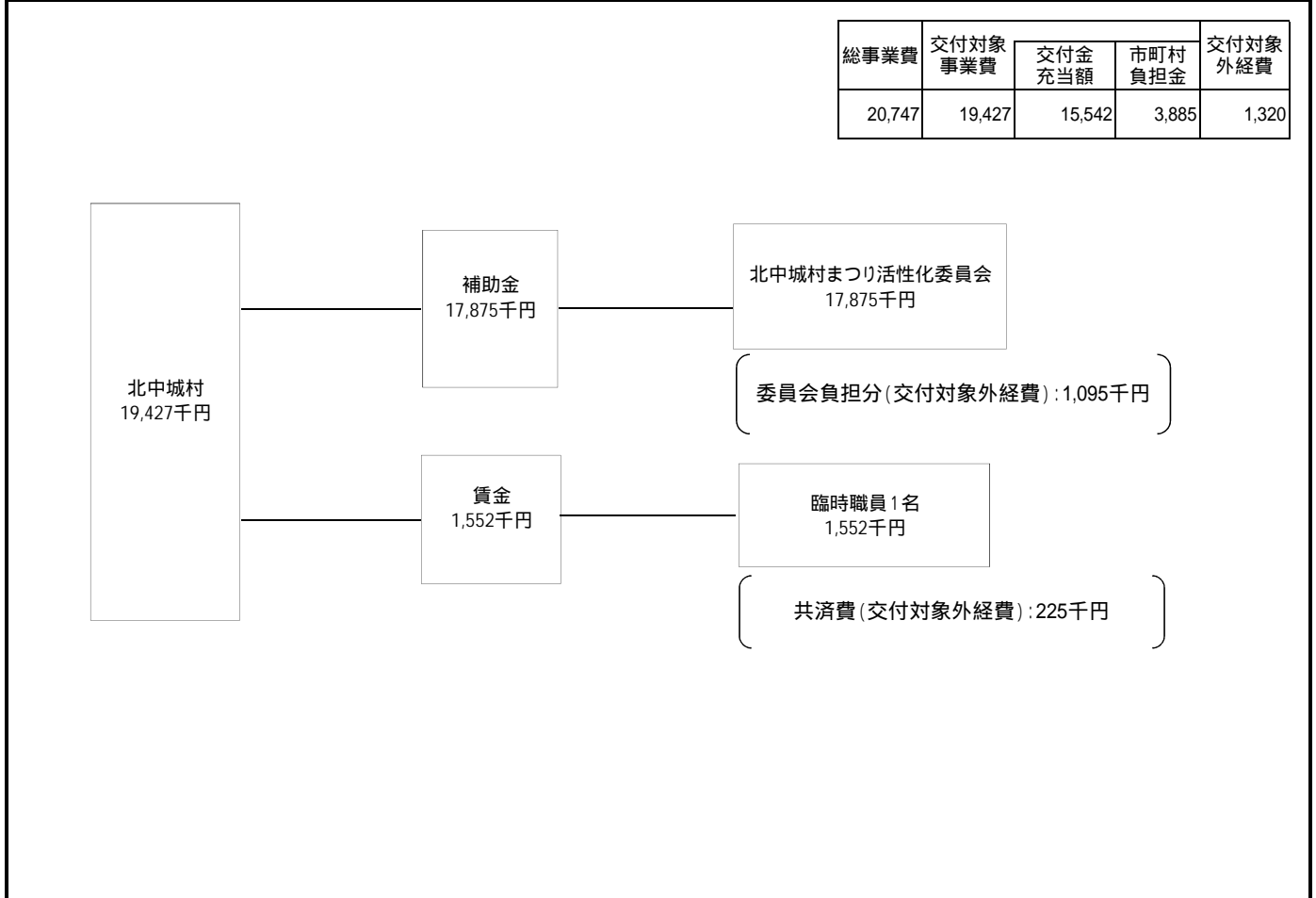
市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③		北中城まつり活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-オ	
	担当部課名	企画振興課		事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 1-(1)
事業内容	県内外の誘客及び村民コミュニケーション醸成を図るため、夏場の祭りとして、沖縄の伝統文化である「青年エイサー」、秋場の「北中城まつり」の開催、そして冬場の祭りとして沖縄の温暖な気候を活かした日本一早い「ひまわりIN北中城」を開催する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	12,072	19,141			
		(b)予算現額	12,392	19,427			
		(c)増減額(b-a)	320	286			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		12,392	19,427			
	B.執行済額		12,225	19,427			
	うち交付金充当額		9,779	15,542			
	次年度繰越額						
	執行率（%）(B/A)		98.7%	100.0%			
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	まつりの実施：3回	目標	(3回)	(3回)	()	()	
		実績	3回	3回			
	まつり開催日数：19日	目標	(20日)	(19日)	()	()	
実績		20日	19日				
達成状況説明	青年エイサーまつり(9/8)、北中城まつり(11/16・17)、ひまわりIN北中城(H26.1/18～2/2)の合計19日間を開催し、活動目標どおり実施し、県内外から誘客することができた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	三大祭における来場者数：11万人 (H23:9万7千人)	目標	(9.7万人)	(10万人)	(11万人)	()	()
		実績		11.1万人	11.1万人		
	地元産業事業者及び 村内各団体参画数：40事業所 (H23:20事業所及び団体)	目標	(20団体)	(40団体)	(40団体)	()	()
		実績		37団体	38団体		
進捗状況説明	各まつりの来場者は「青年エイサーまつり：8,000人」、「北中城まつり：16,500人」、「ひまわりIN北中城：86,600人」で合計11万1,100人で目標値とほぼ同数であった。地元産業事業者及び村内各団体参画数は目標値40団体に対して38団体で、概ね目標を達成することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・まつりについては、村民の遊興の場所であると同時に観光資源であり、村の経済活性化の大きなツールの一つである。 ・青年エイサーまつりは世界遺産である中城城跡で開催することにより、どこにもない祭りを開催することができ、青年が中心となって運営を牽引しており、人材育成にもつながっている。 ・北中城まつりについては舞台において多くの村民が積極的に参加しており、プログラム構成に苦勞するほどである。しかしながら、日中の早い時間に観客が少なく、検討が必要である。 ・ひまわりIN北中城については開催期間が2週間と長いことから農産品の販売や加工品の販売については好調であるが、開催場所が村立中学校周辺の土地改良区の畑であるため、まつりの運営に難しさがあり、場所の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年エイサーについては、世界遺産で行っている唯一のエイサーまつりであり、今後も継続する。しかし、中城城跡の駐車場不足が課題となっていることから、シャトルバスの増便で解決する。 ・北中城まつりについては、日中の観客が少ない時間帯の誘客も含め、イベントの中身の充実が必要であると感じており、民間事業者の知恵も借りる必要があり、全体的に検討を有する。 ・ひまわりIN北中城については、中学校の周辺の畑の開催であり、平日の車の交通量の多さが指摘され、スクールゾーンの危険も指摘されており、改善策、あるいは開催場所の検討が必要である。

今後の取り組み方針

・どのイベントについても開催場所における駐車場不足が指摘されており、シャトルバス増便で対応する。また、村での滞在時間を長くするための工夫を商工会と連携して行う。
 ・各まつりの充実を図るため、イベントを専門とする業者をプロポーザル等で選定し、より工夫を凝らした催し物を検討する。
 ・ひまわりIN北中城の期間中においては、時間帯に関係なく、観光客等の見物客があり、隣接する中学校の登下校時間帯にも多くの車が出入りしていることから、開催場所を数カ所選定し、その中からより安全な会場を決めまつりを開催する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・村内各種団体が委員として参加しており、まつり活性化委員会を補助機関とすることで、全体的な協力体制で取り組むことができ、コミュニティー向上に繋がった。 ・村の文化財や特産品を活用、PRすることができた。一方、臨時職員を配置することで、各種団体へ細かな対応をすることができ、調整がスムーズにできた。 ・受益者負担について、対象経費としてそぐわない経費(食料費等)を委員会負担としているため、事業目的に必要な経費となっている。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-		荻道・大城湧水群周辺環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
	担当部課名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成24年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 -1-(1)
事業内容	平成の名水百選に選ばれた湧水群について、新たな観光資源としての活用を目指し、水質の調査や、世界遺産「中城城跡」のすぐ近くに点在するという環境を活かし、湧水群周辺整備を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	7,230	16,000			
		(b)予算現額	7,230	16,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		7,230	16,000			
	B.執行済額		6,489	14,910			
	うち交付金充当額		5,191	11,928			
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		89.8%	93.2%			
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。また不要額1,090千円は、委託費の入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	荻道・大城湧水群周辺整備基本計画の策定 荻道・大城湧水群周辺整備実施設計の完了	目標	(基本計画の策定 実施設計の完了)	()	()	()	
		実績	基本計画の策定 実施設計の完了				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 湧水群及び個人井戸の調査を踏まえ、湧水の保全・再生・利活用に向けての基本計画を策定した。 基本構想のもと、雨水浸透推進地区の基本設計と、拠点整備対象地区の基本設計を策定した。 一部ネットワーク散策路となる「大城」地区において、現地細部確認調査を踏まえた上で、実施設計を策定した。 各テーマごとの検討段階において、区民意見交換会を実施し、意見等をとりまとめた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	荻道・大城湧水群周辺整備基本計画の策定 荻道・大城湧水群周辺整備実施設計の完了	目標	()	基本計画の策定 実施設計の完了	()	()	()
		実績		基本計画の策定 実施設計の完了			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 湧水の再生に必要である、雨水地下浸透の促進に向け、対象地区の現場調査と検討を行いながら、基本設計を策定していった。今後は実施設計に向けて調整を進めていく。 拠点整備対象地区に係る基本設計については、基本構想のもと検討を踏まえた上で策定していき、今後は実施設計に向けて調整を進めていく。 一部ネットワーク散策路となる「大城」地区においては、実施設計のもと整備を実施していく。 					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点整備基本設計のなかで、拠点の中心部となる村所有地の周りに、独立している敷地と古民家が数箇所確認できた。この数箇所には村所有地と同様、拠点整備の計画を進めていくなかで、湧水群再生と観光交流を図る目的として、重要な位置を示している。 ・雨水地下浸透における上位計画では、道路側溝の地下浸透タイプが提案されたが、現時点で集落のほとんどの道路側溝に浄化槽の放流水が流入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独立している数箇所の敷地等は、拠点施設として重要な箇所を占めており、さらに雨水浸透促進地区でもあることから、用地取得に向けて調整を検討していく必要がある。 ・古民家についても、湧水群の活性化・観光交流を図る目的として、再利用に向け調整を進めていく必要がある。 ・集落内の道路側溝において、雨水の地下浸透タイプに改修することは時期尚早であることから、慎重に検討を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・拠点整備地区の実施設設計を進めていくと同時に、独立している敷地・古民家の権利取得に向けて調整を行う。その上で拠点の中心部となっている村所有地、また湧水群との連続性を図りながら、観光交流と湧水再生に向けての事業を展開していく。
 ・道路側溝の雨水地下浸透については、慎重に計画を進めつつ、家庭用雑排水の流入がない道路側溝に限り実施していく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,910	14,910	11,928	2,982	



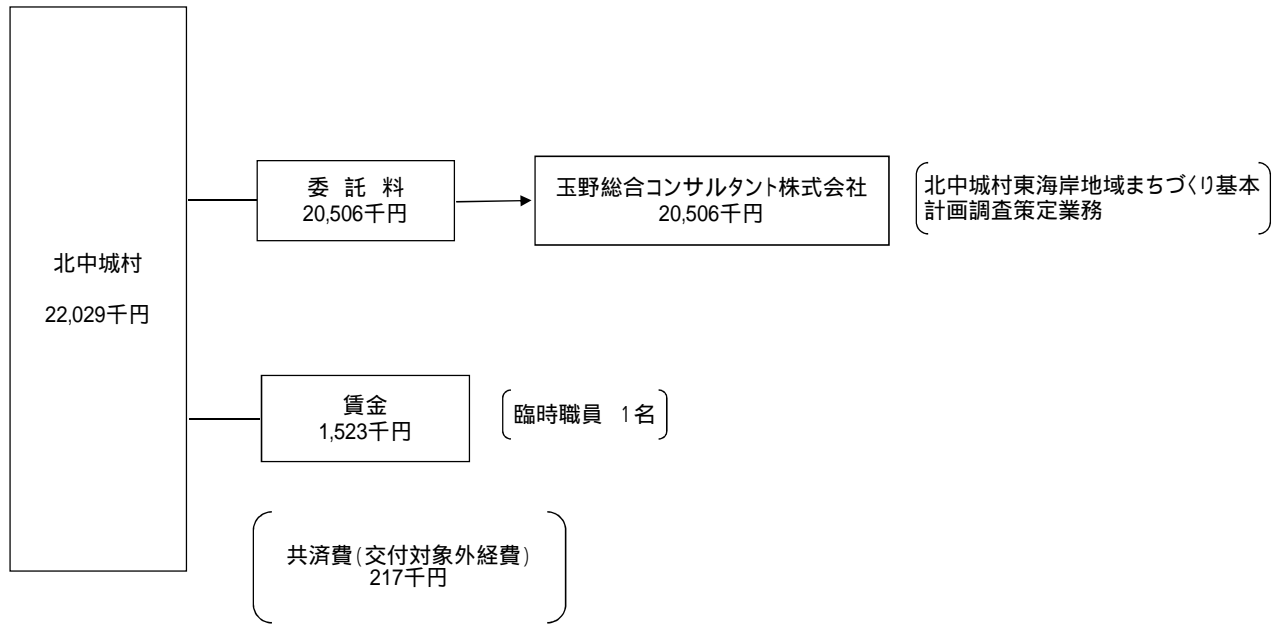
資金の流 れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・受託業者は指名競争入札に選定しており、妥当であったと考える。 ・費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものが等について、額の確定時において支出に関する書類を確認の結果適正であった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	東海岸まちづくり整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア	
担当部課名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成24年度～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトウェアを活用した新事業・新産業の創出 -1-(1)
事業内容	本村の東海岸地域における低・未利用地(遊休農地等)の有効的な土地利用を図るため、津波等の災害に強い防災基盤施設等の整備と併せて、魅力ある「食」の資源を活かした特色ある観光地として都市的基盤整備を行うための、基本計画(素案)を策定した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,933	30,153			
		(b)予算現額	11,933	30,153			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		11,933	30,153			
	B.執行済額		11,411	22,029			
	うち交付金充当額		9,128	17,623			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		95.6%	73.1%			
予算の状況の説明		不要額8,124千円は、委託費の入札残及び精算によるものである					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	基本計画(素案)の策定	目標	基本計画(素案)策定	()	()	()	
		実績	基本計画(素案)策定				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	観光交流機能や減災機能等の観点から、基本計画(素案)を策定した。 ・測量に関し、地権者同意に時間を要したため、当初予定していた計画数量を達成することができなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	基本計画(素案)の策定	目標	()	基本計画(素案)策定	()	()	()
		実績		基本計画(素案)策定			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	減災機能等を中心とした基本計画(素案)を策定し、津波シミュレーションを地権者へ示すことで、さまざまな意見を得ることができた。 ・関係機関との調整や地権者合意形成に取り組む					

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>沖縄県が平成25年3月に公表した津波シミュレーションを基に、当該地区の浸水深等について検討を行ったが、「津波防災地域づくりに関する法律」に基づく津波浸水想定を新たに策定することから、沖縄県の策定結果に合わせて、当該地区の津波シミュレーションも再検討が必要となる。</p> <p>また、防災・減災機能について、地権者から要望が出てきたことから、他の案を提案する必要がある。</p> <p>その他、当該地区のまちづくりに向け、測量業務を行ったが、土地立入に関する同意取得に時間を要した為、達成できない箇所が出てきた。</p>	<p>当該地区は農業振興地域及び市街化調整区域の為、市街化区域編入の手続きが必要である。沖縄県の区域見直し時期に合わせて必要な手続きを行っているが、説明材料が更に必要となる。</p> <p>また、地権者要望を基に他に効果的な案を検証する必要がある。</p> <p>その他、測量に関して地権者から同意を得られるよう早期に取り組む必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>平成26年度においては、沖縄県の区域見直しに係る関係機関との調整や、基本計画策定に向けたまちづくり案を作成するとともに、地権者合意形成のための説明会を実施し、災害に強く魅力あるまちづくりに向け取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
22,246	22,029	17,623	4,406	217



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・受託業者は指名競争入札に選定しており、妥当であったと考える。</p> <p>・費目・使途については、事業目的に即し適正であると考える。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	観光コミュニティバス導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-ウ	
	担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	人に優しい交通手段の確保 -1-(1)
事業内容	村内の観光資源をターゲットとした観光コミュニティバス導入に向け、導入時及び運用時等の問題・課題を整理し、交流活性化基本計画・実施計画を策定する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,500	12,000			
		(b)予算現額	10,500	12,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		10,500	12,000			
	B.執行済額		9,135	9,450			
	うち交付金充当額		7,308	7,560			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		87.0%	78.8%			
予算の状況の説明		不用額が2,550千円発生しているが、委託費の入札残に加え、当初計画していた県外事例調査及びその旅費について、事例選定先との調整ができなかったための事業内容変更による減である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	観光コミュニティバス導入基本計画の策定	目標	基本計画の策定	()	()	()	
		実績	基本計画の策定				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	平成26年度に予定している地域公共交通会議における協議事項となる運行ルート、バス停箇所、運行ダイヤ等の基本計画を取りまとめるとともに、実施計画策定に向けた庁内協議会を2回、住民(自治会長)を対象にWSを2回開催することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	観光コミュニティバス導入基本計画の策定	目標	()	基本計画の策定	()	()	()
		実績		基本計画の策定			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	観光コミュニティバスに係る展開方針や実施スケジュール等の基本計画を取りまとめることができた。また、実証実験及び本格導入に向けて、村内を走行する路線バスの利用者の実態を把握し、次年度予定している関係機関との協議に用いる基礎資料の作成を行うことができた。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	関係機関(バス、タクシー業者等)との協議で課題としてあげられる利用料金やルート、運行ダイヤ・停留所の設置場所等について整理し、実証実験の実施に向けて関係課との協議や住民の意見を踏まえる必要がある。	実証実験実施に向けて、関係機関との協議に係る詳細な運行計画を策定するとともに、バス導入に向けた認知度を上げるための広報活動を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
北中城村交流活性化基本計画及び実施計画の策定やコミュニティバス導入に関わる民間のバス事業所等との協議会を進め、平成27年度以降の社会実験及び本格導入に向け、特色ある地域公共交通の施策の展開を目指す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	9,450	9,450	7,560	1,890	0
<pre> graph LR A[北中城村 9,450千円] --> B[委託料 9,450千円] B --> C["(株)中央建設コンサルタント 9,450千円"] C --- D["観光コミュニティバス導入事業に係る委託業務"] </pre>					

資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は指名競争入札により落札した業者を選定しており妥当であったと考える。 ・費目・用途については、事業目的に即し適正であると考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	地域活性化キャラクター作成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部課名	総務課		事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度		市場特性に対応した誘客活動の展開	
事業内容	本村の認知度向上と地域資源の情報発信・観光客誘客強化を図るため、イメージキャラクターの募集、マスコット化、商標登録、着ぐるみの作成及びARアプリケーションの作成を行い、本村PRのツールとして活用する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	23,512				
		(b)予算現額	23,512				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	23,512				
	B.執行済額		22,818				
	うち交付金充当額		18,254				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		97.0%				
予算の状況の説明		不要額が694千円発生しているが、委託費の精算によるものであり、当初計画していたキャラクターの商標登録事業の必要性が不必要となったことと、調整にかかる旅費について精算減を行った。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
	キャラクター募集や着ぐるみの作成	目標	25年度	26年度	27年度	28年度	
		実績	キャラクター募集や着ぐるみの作成	()	()	()	
		目標	交流イベント等への参加	()	()	()	
		実績	交流イベント等への参加				
	達成状況説明	地域活性化キャラクターの公募により556点もの作品の応募があり、選定委員会を開催し3体着ぐるみとして採用した。着ぐるみの完成披露会や保育所での交流、観光施設での交流を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	キャラクター着ぐるみ:3体作成	目標	()	(3体)	()	()	()
		実績		3体			
	キャラクターふれあいイベント:1回	目標	()	(1回)	()	()	()
		実績		4回			
	進捗状況説明	平成25年度中に着ぐるみの作成を行い、街頭や保育所等での活用を行った。長期利用できるようメンテナンスしながら、年100回の稼働を目指す。ARアプリケーションについては、平成26年度よりリリース後のダウンロード数をカウントする。					

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・着ぐるみの貸出運用に関しては、キャラクターの個性のレクチャーを行うとともに、雨や汚損等適宜メンテナンスを行わなければならない。 ・ARアプリケーションについては、システム保守等によるセキュリティの向上と、ユーザーを飽きさせないため、全課体制及び地域住民も巻き込んだ情報収集の体制を構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着ぐるみの貸出に関し、要綱の周知を図り、安全に活用できるようにしようマニュアルを使用者の視点での更新を図っていく必要がある。 ・ARアプリケーションについては、様々な情報等、紹介する店舗等ポイントをスクラップアンドビルドで常に最新に保つため、商工会等と連携する必要がある。

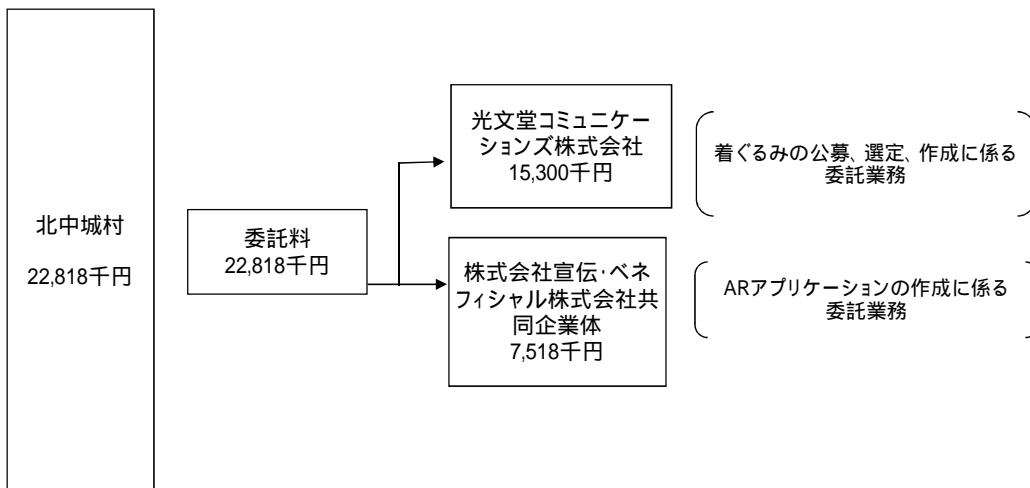
今後の取り組み方針

着ぐるみの活用を図っていくため、演者の育成及び発掘を行うほか、パンフレットの作成等により周知活動を行う。さらにARアプリケーションに地形の高低表示機能の追加を行い、北中城村の特徴ある地形の楽しみ方イベントの開催を行う。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,818	22,818	18,254	4,564	



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・今回専門性の高い委託業務として、プロポーザルにより業務提案及び予算提案をいただき、その中から優れた内容のものを選定した。 ・費目・使途について、北中城村の地域活性化を図るため、顔となるキャラクターの作成を行っている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村											
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】													
事業番号・事業名	1-		景観計画策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア							
	担当部課名	建設課		事業実施(予定)年度		平成24年度～25年度	沖縄らしい風景づくり						
事業内容	本村における景観特性や目指すべき「将来像」及び「景観形成に関する方針」等を示し、良好な景観形成のための行為の制限等を定めることにより、実現性の高い景観形成を推進するため、景観計画を策定する。												
	実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()											
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度			
		(a)当初予算額	4,800		4,500								
	(b)予算現額	4,800		4,500									
	(c)増減額(b-a)	0		0									
	(d)繰越額	-		-									
	A.計(b+d)	4,800		4,500									
	B.執行済額	4,526		4,253									
	うち交付金充当額	3,620		3,402									
	次年度繰越額	0		0									
	執行率(%) (B/A)	94.3%		94.5%									
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。不要額247千円については、入札残によるものである。											
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況										
			24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		
	景観計画の策定	目標	(景観計画策定)		(景観計画策定)		()		()		()		
		実績	景観計画策定		景観計画案策定								
	景観行政団体への移行	目標	(-)		(景観行政団体への移行)		()		()		()		
実績		-		景観行政団体への移行									
達成状況説明		・本年度において、村内の全字(17地区)で住民説明会を開催し、景観計画案について意見交換を行った。その後、景観計画策定委員会を3回、内部の庁内検討部会を2回開催し、協議を重ね、景観計画案について修正を行ったが、説明会での住民意見等によりさらに合意形成が必要であり、計画策定には至らなかった。 ・平成26年3月に景観行政団体へ移行した。											
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)		25年度		26年度		27年度		目標値(年度)		
	景観行政団体への移行	目標	()		景観行政団体への移行		()		()		()		
		実績	/		景観行政団体への移行		/		/		/		
	[参考指標]		目標	()		()		()		()		()	
			実績	/		/		/		/		/	
進捗状況説明		今後は、住民意見を反映して修正した事項を含め、特に重点地区(菟道・大城地区及びアワセ地区)に関しては次年度以降も住民と意見交換を行い、より具体的な景観形成基準を検討していき、景観計画策定及び条例施行を目指す。											

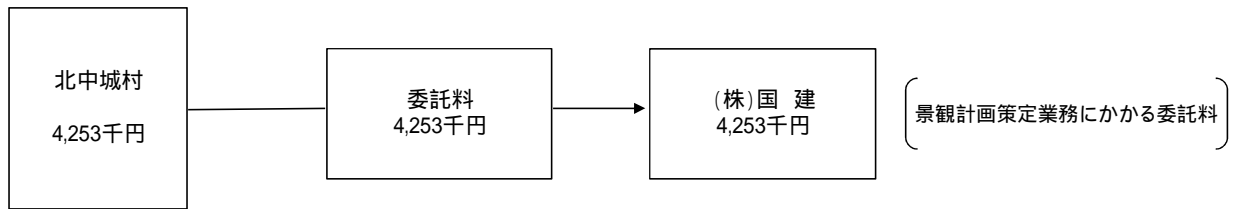
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>景観計画策定に向けた地域への周知と合意形成について、特に、景観重点地区について、一般地区と比較して厳しい規制が想定され、支援策の検討と併せて、地域の周知と十分な合意形成が重要となる。</p>	<p>景観形成は、都市計画のみならず、産業振興・文化振興など、多岐にわたる分野が関連するので、庁内の連携した体制の確立と併せて、地域住民や事業者に対する意識啓発の取り組みが必要となる。</p>

今後の取り組み方針

交付金事業としては平成25年度で終了であるが、今後も景観計画策定にあたり、特に景観重点地区に焦点を置き、地域住民や事業者に対する景観づくりの意識啓発のため、説明会に加え、ワークショップなどを行い、本村の目指すべき景観形成について取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,253	4,253	3,402	851	



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託業者とは指名競争入札を経て契約しており妥当であったと考える。</p> <p>・費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものが等について、額の確定時において支出に関する書類を確認の結果、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	公営墓地整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア	
	担当部課名	住民生活課	事業実施(予定)年度	平成25年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトウェアを活用した新事業・新産業の創出 1-(1)	
事業内容	墓地散在化の抑制と整理、景観的な配慮や住環境の改善を図るといったこれまでの取組とあわせて、沖縄独特の墓地問題の解決に取り組むため、公営墓地整備に向けた基本設計及び実施設計を実施した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,660	42,615			
		(b)予算現額	4,660	42,615			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		4,660	42,615			
	B.執行済額		4,410	40,981			
	うち交付金充当額		3,528	32,785			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		94.6%	96.2%			
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め業務を遂行した。なお、不要額1,634千円については、入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
	測量・基本設計、実施設計の実施		25年度	26年度	27年度	28年度	
		目標	(測量・基本設計、実施設計の実施)				
		実績	測量・基本設計、実施設計の実施				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	測量・基本設計・実施設計業務を委託し、具体的な公営墓地の造成計画及び進入路の形ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	測量・基本設計、実施設計の完了	目標	()	(測量・基本実施設計、実施設計完了)			()
		実績		測量・基本実施設計、実施設計完了			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	公営墓地候補地の測量・基本設計、実施設計をすることにより具体的な造成計画ができたことにより、今後はスムーズな用地取得を進めるとともに、コンパクト化された区画墓地の整備、納骨堂整備に係る建築実施設計を行う。					

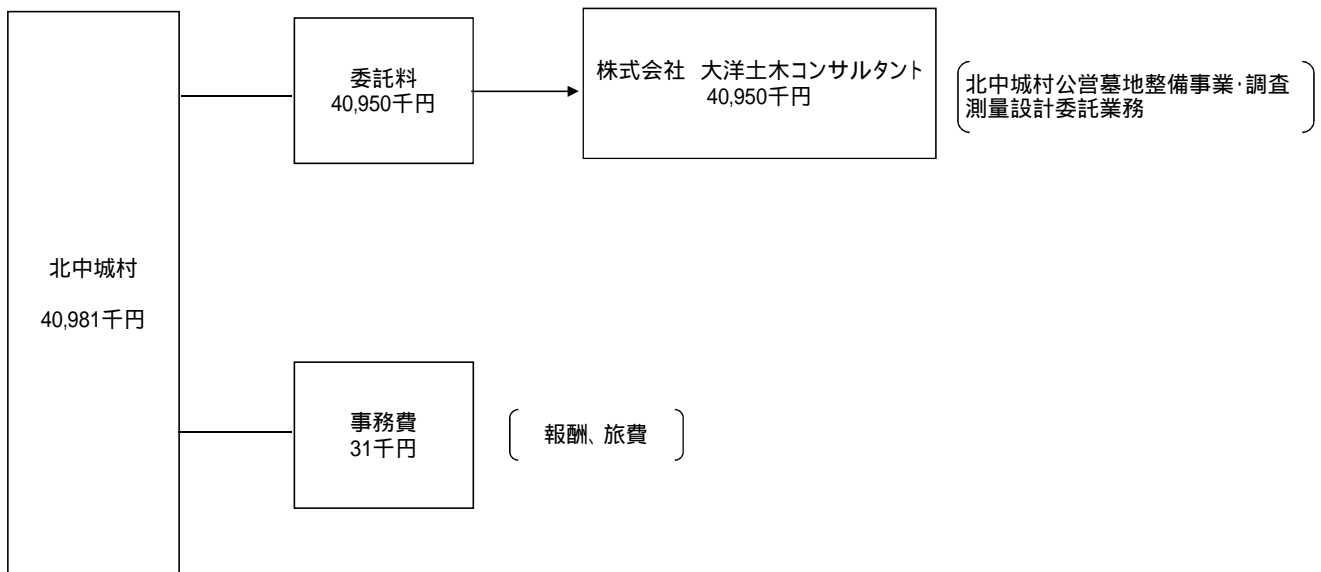
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計を行うことで用地の地形や状況を知ることができたが、墓地予定地は窪地になっており、盛土造成による周辺環境の変化が懸念されるため、実施設計時には、十分な環境への配慮をした対応が必要となる。 用地買収について、購入対象の用地が多数あるため、合意形成を含め、用地買収に時間がかかる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した実施設計を行うため、地形にあった造成方法を検討する必要がある。 用地買収については、公営墓地の必要性を地域地権者に説明しつつ、円滑な土地取得を推進する必要がある。

今後の取り組み方針

墓地散在化防止のための公営墓地整備を推進していくため、平成25年度から平成26年度にかけて用地取得を行い、その進捗に併せて納骨堂実施設計・進入路整備・墓地造成及び建築工事を進める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
40,981	40,981	32,785	8,196	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 受託事業者は指名競争入札方式により選定しており、妥当だと考える。 予算規模及び費目・使途については、事業目的に即し適正であると考えます。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	アワセゴルフ場地区観光拠点づくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ウ	
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24年度～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の有効利用の推進 - 8	
事業内容	観光客誘致が期待される駐留軍用地跡地である「アワセゴルフ場地区」の観光拠点まちづくり及び安心安全なまちづくりを推進し、災害にも強く魅力ある観光まちづくりを目指し、災害時及び災害復旧時を想定した避難路、輸送路、物資供給などの調査・計画策定を実施する						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,172	13,241			
		(b)予算現額	11,172	13,241			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		11,172	13,241			
	B.執行済額		10,585	13,112			
	うち交付金充当額		8,467	10,489			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		94.7%	99.0%			
予算の状況の説明		不要額129千円は入札残や臨時職員の勤務日数によるものであり、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	アワセゴルフ場観光拠点計画の策定	目標	観光拠点計画の策定	観光拠点計画の策定	()	()	
		実績	観光拠点計画の策定	観光拠点計画の策定			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	アワセゴルフ場地区観光拠点づくり事業については3年をかけて実施する予定であるが、平成25年度はアワセ地区の安全性に関する調査として、地盤・地形、井戸や地下水の活用調査などを行った。また、避難路の確保として誘導看板、案内標識の検討等を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	アワセゴルフ場観光拠点計画の策定	目標	()	観光拠点計画の策定	観光拠点計画の策定	()	()
		実績		観光拠点計画の策定	観光拠点計画の策定		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	観光拠点として必要となる多言語表示での具体的な案内標識の表示内容の検討や配置場所に関する検討ができた。					

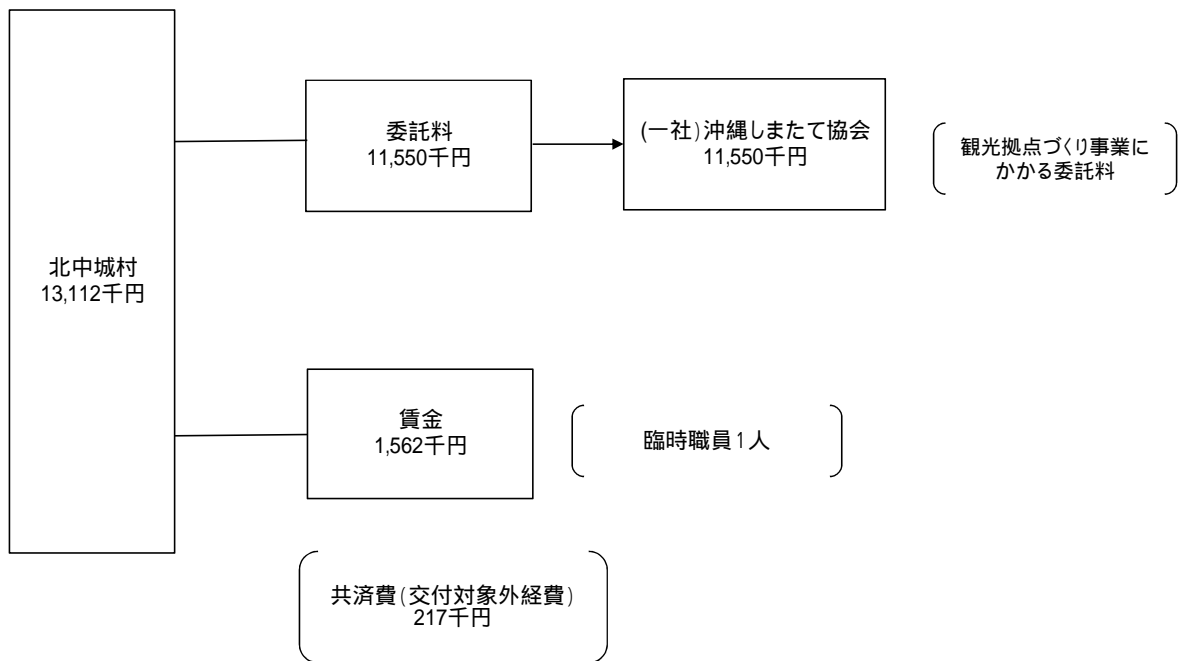
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区は大型の病院、商業施設、アリーナなどの建設が予定されており、様々な組織・団体が関係している。そのため当地区を防災拠点、観光拠点として機能させるためには各組織・団体の連携が不可欠となる。 ・アワセ地区の造成工事が進む中で、地区内の植栽、案内表示板など、魅力あるまちづくりの観点から、街並み景観のあり方について、検討を行う必要がある。 	<p>当地区を防災拠点、観光拠点にするため、各組織・団体との連携についての検討(災害時防災協定等)や観光拠点に相応しいまちなみ景観の検討を行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

平成26年度計画策定を目指し、次年度は観光拠点まちづくり及び安心安全なまちづくりを推進と、災害により強く魅力ある観光まちづくりを目指すため、災害時及び災害復旧時を想定した避難路、輸送路、物資供給などの調査・計画策定を実施する。また、多言語案内標識の試作、観光拠点に相応しいまちなみ景観についての検討を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,329	13,112	10,489	2,623	217



資金の 使途の 流れ、 評価 ・ 点検 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は指名プロポーザルを実施しており、妥当であったと考えている。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	アワセゴルフ場地区歴史・まちづくり映像保存事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24年度～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり -8	
事業内容	アワセゴルフ場地区は、戦前は肥沃な土地に恵まれた比嘉集落が形成され、自作農で生産性も高く豊かな集落であったが、戦後、強制的に土地が収用され60年余あまりにわたって米軍娯楽施設のゴルフ場として使用され、平成22年7月に返還された。そのような戦前の営みからゴルフ場利用、返還合意から土地利用までの歴史文化の継承を図るため、映像、記録、編集を実施する。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,000	940			
		(b)予算現額	1,000	940			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		1,000	940			
	B.執行済額		940	940			
	うち交付金充当額		751	751			
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		94.0%	100.0%			
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	記録映像の作成	目標	記録映像の作成	(記録映像の作成)	()	()	
		実績	記録映像の作成	記録映像の作成			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	本年度は、アワセ土地区画整理組合認可、組合設立、安全祈願祭、造成工事着手を主に撮影した。その他、工事風景や商業施設・大型病院のパースなどを取り入れながら映像を記録した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	記録映像の作成	目標	()	(記録映像の作成)	(記録映像の作成)	()	()
		実績		記録映像の作成	記録映像の作成		
	記録映像の撮影時間:3時間	目標	()	(3時間)	(3時間)	()	()
		実績		3時間	3時間		
	進捗状況説明	本年度は、主に工事着工までを映像として残してきたが、今後は道路事業、商業施設・大型病院の建設等、まちびらきに向けて動くアワセゴルフ地区の様子を映像記録として残していく。					

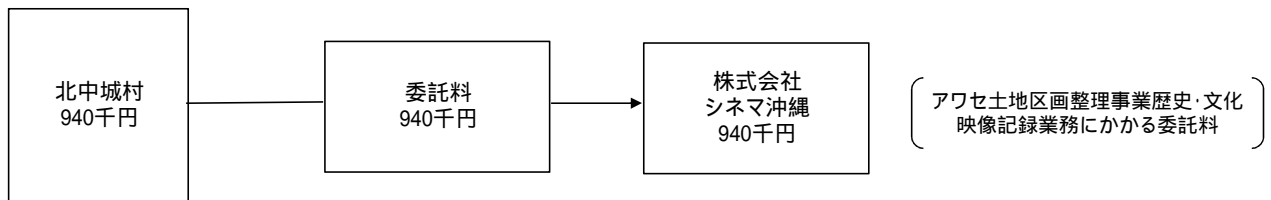
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>これからのまちづくりに係る映像記録を、今後どのように活用し、跡地利用計画に反映していけるかが課題となる。</p>	<p>・本年度までの記録映像では、前半部分に歴史映像等を組み込んでいたが、次年度以降は主に、これからの「まちづくり」に焦点をあてて映像を記録する必要がある。 ・記録した映像を今後のコミュニティ形成に役立てるとともに、当該地区の開発にあたり、企業誘致など基地跡地利用の都市開発モデルとしてアピールできる取り組みを検討する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

引き続き当該地区の「まちびらき」までの様子を映像として記録し、ホームページでの配信やDVD等で配布を図り、当該地区の歴史や進捗状況を地域住民を含め幅広く伝える映像広報ツールとして活用していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
940	940	751	189	



資金の 用途の流れ、 点検項目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者は実績等を勘案して契約を実施しており、妥当であったと考えている。 ・費目・用途については事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考えている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	アワセゴルフ場地区利用推進プロジェクト管理事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア	
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成24年度～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組 -8	
事業内容	駐留軍用地跡地であるアワセ土地区画整理事業は早期使用収益を目指し今後の跡地利用のモデルケースとなるよう目指している。今年度より工事の着工を予定し、多くの関連工事、複数の関係機関との調整を図る必要がある。昨年度事業行った全体基本計画を基に実際に発注、着工に合わせ段階的に細分化させるため、プロジェクト管理能力のあるプロジェクトマネージャーの助言を得てアワセゴルフ場跡地開発の全体実施計画の作成、事業費基本計画の作成、全体計画の進捗管理に関してステークホルダー（プロジェクトに関係しているあらゆる人々）との調整及び管理を実施した。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他（ ）		
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,700	8,700			
		(b)予算現額	2,700	8,704			
		(c)増減額(b-a)	0	4			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		2,700	8,704			
	B.執行済額		2,688	8,704			
	うち交付金充当額		2,150	6,963			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.6%	100.0%			
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	アワセゴルフ場地区利用推進プロジェクト（主に土地造成等）の調整・管理の実施	目標	（プロジェクト調整管理実施）	（プロジェクト調整管理実施）	（ ）	（ ）	
		実績	プロジェクト調整管理実施	プロジェクト調整管理実施			
		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実績					
達成状況説明	跡地利用の迅速な推進を図るため、アワセゴルフ場跡地開発の全体計画の作成、工期の短縮検討、進捗管理、将来予測、関係機関との調整及び管理ができた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	アワセゴルフ場地区利用推進プロジェクト（主に土地造成等）調整・管理の実施	目標	（ ）	（アワセゴルフ場地区利用推進プロジェクト調整管理実施）	（アワセゴルフ場地区利用推進プロジェクト調整管理実施）	（ ）	（ ）
		実績		アワセゴルフ場地区利用推進プロジェクト調整管理実施	アワセゴルフ場地区利用推進プロジェクト調整管理実施		
	[参考指標]	目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実績					
	進捗状況説明	インフラ整備や立地する民間企業の建築工事等が本格的に開始され、各工程摺合せや進捗管理を行うことができた。					

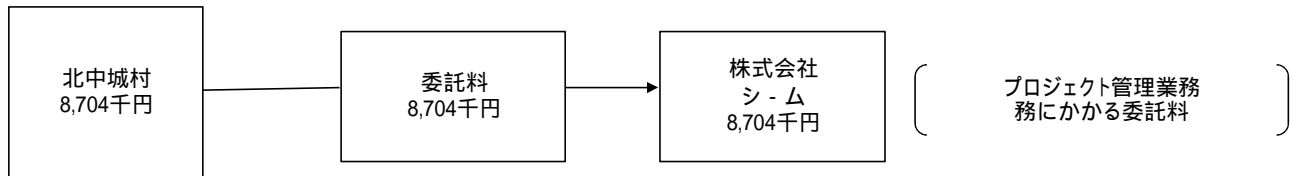
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>昨年度実施した全体基本工程表を基に細分化させ、実際の工事、関係機関との工程調整事項が、今後の跡地利用のモデルケースとなるよう迅速な推進を図ることが重要であった。常に全体の状況を把握する目的であるが、他機関との調整事項が長期にわたることもあり、今後の事業を進めるにあたって重要課題となるため、今後の事業に反映させていく必要があった。</p>	<p>第1回使用収益を目前とし、各関連工事、複数の関係機関との工程管理、調整が重要となる。関係機関との工程調整を共有し、課題解決に向けて連携していく必要があるため、ステークホルダー(プロジェクトの関係者)への効率的な組織運営計画を実施するにあたり、工程分析資料の作成が必要となる。今後もプロジェクトマネージャーの助言を得て更なる推進に取り組み跡地利用のモデルケースとなるよう事業を進める必要がある。</p>

今後の取り組み方針

プロジェクト管理能力のあるプロジェクトマネージャーの助言を得て跡地利用の迅速な推進を図るため、アワセゴルフ場跡地開発の全体計画の進捗状況の確認、工期の短縮検討、進捗管理、将来予測、ステークホルダー(プロジェクトに関係しているあらゆる人々)との調整及び管理を継続的に実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
8,704	8,704	6,963	1,741	



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者は実績等を勘案して契約を実施しており、妥当であったと考えている。</p> <p>・費目・使途については事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考えている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村									
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	2-		アワセゴルフ場地区総合整備計画事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-イ					
	担当部課名	建設課		事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の計画的な整備 - 8				
事業内容	平成24年度に見直したアワセゴルフ場地区総合整備計画のうち、「健康増進」・「スポーツ施設」・「スポーツ交流」に係る公共施設整備(多目的アリーナ)の基本設計を行なった。										
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
		(a)当初予算額	5,137		22,300						
	(b)予算現額	4,190		22,300							
	(c)増減額(b-a)	947		0							
	(d)繰越額	-		-							
	A.計(b+d)	4,190		22,300							
	B.執行済額	3,885		22,208							
	うち交付金充当額	3,108		17,766							
	次年度繰越額	0		0							
	執行率(%) (B/A)	92.7%		99.6%							
予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。										
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況								
			25年度		26年度		27年度		28年度		
	公共施設整備(多目的アリーナ)の設計		目標	公共施設整備(多目的アリーナ)の設計		()	()	()	()		
			実績	公共施設整備(多目的アリーナ)の設計完了							
			目標	()	()	()	()				
			実績								
達成状況説明	健康増進・スポーツ施設・スポーツ交流及び、防災拠点としての機能も持った施設設計という観点から、既存の計画及び建築設計事例を参考に、より利用者や関係部署の要望を反映した設計ができた。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)				
	公共施設整備(多目的アリーナ)の基本設計の完了		目標	()	公共施設整備(多目的アリーナ)の設計完了	()	()	()			
			実績		公共施設整備(多目的アリーナ)の設計完了						
	[参考指標]		目標	()	()	()	()	()			
			実績								
	進捗状況説明	今年度策定した基本計画をもとに、次年度において多目的アリーナ実施設計を行い、平成28年度工事着手に向け取り組む。									

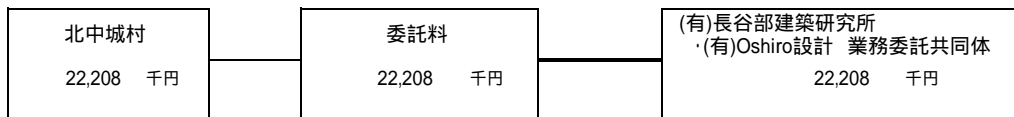
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 設計対象となる公共施設の規模の決定については、利用目的を鑑み行政及びその利用者となる村民へのアンケート調査結果を反映することができた。 利用される行事における動員数の設定及び維持管理等の経費面の調査について、国・県内の類似施設での実績調査に時間を要した。 今後の周辺開発により、施設の利用に関する新たな要望が発生することが考えられる。 	<p>当該施設の利用に関する要望への対応及び維持管理に係る民間企業との調整において、専門的な窓口となる部門(担当部署)の設立を検討するとともに、実施設計前における綿密な機能配置等の協議が必要である。</p>

今後の取り組み方針

・アワセゴルフ場地区総合整備計画事業として、公共施設整備(多目的アリーナ)の基本設計が完了したことにより、一括交付金事業としては終了となる。
 ・実施設計及び建物工事については、防衛補助を活用し、健康増進機能、防災拠点機能などを有した総合的な施設の整備工事を着実に遂行する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

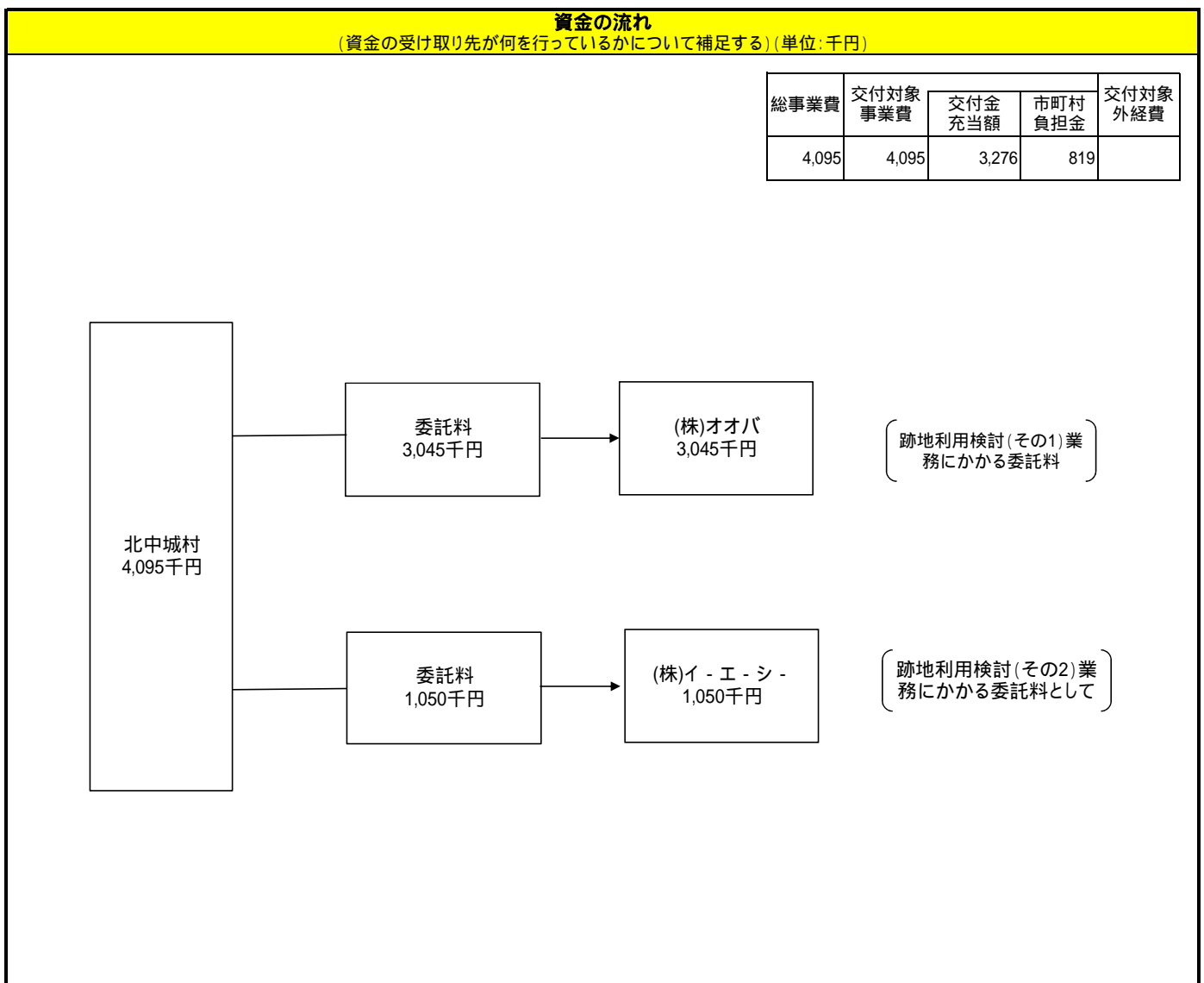
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
22,208	22,208	17,766	4,442	0



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業者の選定についてはプロポーザル方式で行っており妥当であると考えます。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考えます。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	サウスプラザ地区跡地利用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-イ	
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の計画的な整備 - 8	
事業内容	アワセゴルフ場地区と当該地区を一体的に整備するため、造成基盤整備(調整池)の設計を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	9,570	6,500			
		(b)予算現額	9,570	6,500			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	9,570	6,500			
	B.執行済額		9,258	4,095			
	うち交付金充当額		7,406	3,276			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		96.7%	63.0%			
予算の状況の説明		当初予定していた跡地利用範囲縮小によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	調整池設計	目標	(調整池設計)	()	()	()	
		実績	調整池設計完了				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	昭和49年に返還されたサウスプラザ地区について、調整池設計を行うことができた。又、前年度の環境調査で見つかった貴重な動植物について地区外へ移動を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	調整池設計完了	目標	()	調整池設計完了	()	()	()
		実績		調整池設計完了			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	本年度実施した設計をもとに調整池を設置し、国道を挟んで隣接するアワセゴルフ場地区と一体となった整備を進める。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	アワセゴルフ場地区の工事が順調に進む中で、造成等により搬出される残土の一部を当該地区に搬入する予定であり、アワセゴルフ場地区の工事進捗に併せて、調整池工事を早めに行わなければならない。	当該地区の周辺環境に配慮しつつ、早期の調整池工事を行うとともに、完成後の施設整備等の検討を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
一括交付金事業としては、平成25年度で終了となるが、今後はアワセゴルフ場地区開発と併せて、調整池の設置及び施設配置の検討を行い、周辺環境への配慮を図りながら魅力ある跡地利用に取り組む。		



資金の流 れの点 検・評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は実績等を勘案して指名競争入札を実施しており、妥当であったと考えている。 ・費目・用途については事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。		

市町村名		北中城村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2- 喜舎場ハウジング地区跡地利用推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(13)-ア			
	担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組		
事業内容	駐留軍用地キャンプ瑞慶覧「喜舎場ハウジング地区」内における跡地利用推進計画として、喜舎場スマートICのフルインター化に向けた、交通量調査、道路構造、跡地利用などの調査を実施した。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	16,000					
		(b)予算現額	16,000					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	-					
		A.計(b+d)	16,000					
	B.執行済額		12,106					
	うち交付金充当額		9,685					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		75.7%					
予算の状況の説明		不要額3,894千円は、委託費の入札残及び精算によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	・喜舎場スマートICのフル化に向けた交通量観測計画の策定 ・交通量推計(村内ネットワーク)の作成	目標	交通量観測計画・交通量推計作成			()	()	
		実績	交通量観測計画・交通量推計作成					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	村内のボトルネックを中心に交通量観測の実施及びH32・H42年次とした交通量推計(ネットワーク)を作成した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	・喜舎場スマートICのフル化に向けた交通量観測計画の策定 ・交通量推計(村内ネットワーク)の作成	目標	()	交通量観測計画・交通量推計作成	()	()	()	()
		実績		交通量観測計画・交通量推計作成				
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	交通量観測計画及び交通量推計の作成により、喜舎場スマートICをフル化した場合における一般道への影響を把握・村内の将来交通ネットワークにおける計画路線(3路線)の費用便益費(B/C)を算定し、整備優先箇所の検討を行うことができた。						

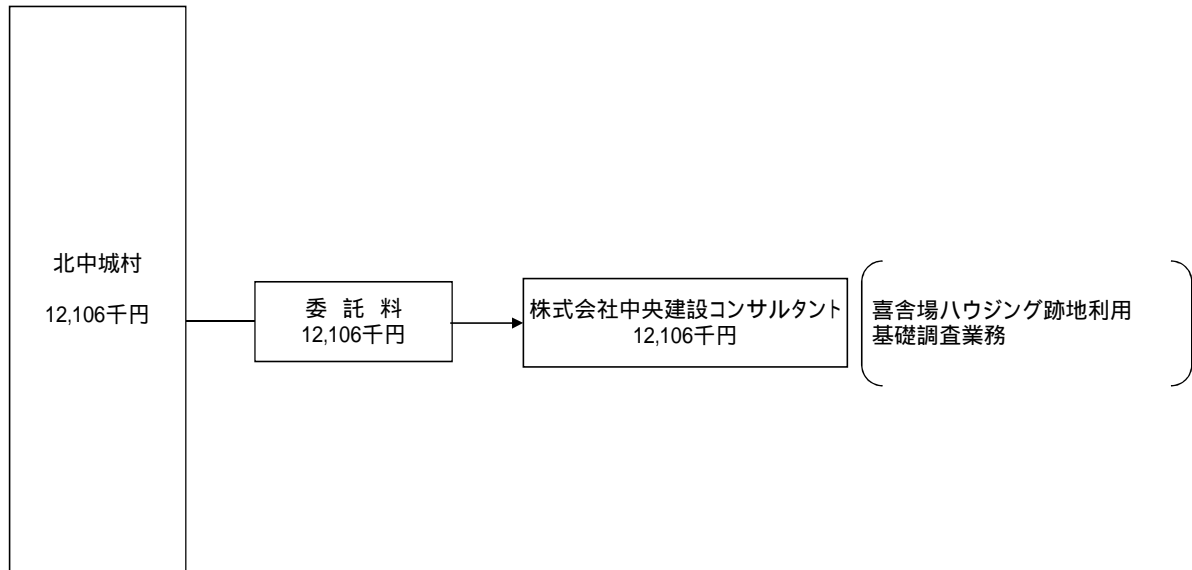
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・平成25年4月、駐留軍用地キャンプ瑞慶覧「喜舎場ハウジング地区」の返還について2024年またはその後と示されたものの、米側から当該地区への米軍車両乗り入れの要望がある。そのため、スマートICフル化と併せて軍用地側からの乗り入れを検討し、米側との調整を推進することで、早期返還が可能となると考える。</p> <p>・返還後の利用について、喜舎場スマートインターのフル化のため、形式や構造等を検討し、喜舎場スマートIC協議会下部組織である作業部会で検討する予定であったが、IC形式・構造の検討に時間を要したため、実施までは至らなかった。</p>	<p>外的要因の変化や将来の交通量推計から当該地区に及ぼす影響を、各道路管理者及び交通管理者とともに情報共有し、道路構造やIC形式の検証を行うとともに、村内主要道路のシフト道路等の検討が必要がある。</p>

今後の取り組み方針

平成27年度4月に大型商業施設が開店予定であり、村内交通網に影響が出ると思われることから、村内交通における新たなシフト路線の検討と、喜舎場スマートICのフル化による村内外の交通の利便性向上のため、当該地区の早期返還によりスマートインターのフル化を実現が必要である。今後、早期返還に向け米側との協議や各管理者との協議・フルインターに向けての土地の影響範囲の精査等を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,106	12,106	9,685	2,421	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・受託業者は指名競争入札に選定しており、妥当であったと考える。</p> <p>・費目・用途については、事業目的に即し適正であると考える。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	北中城村
------	------

平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-	キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度～29年度	早期の事業着手に向けた取組
			沖縄振興基本方針該当箇所	-8

事業内容
 キャンプ瑞慶覧ロウワープラザ住宅地区の跡地利用を促進するための基金を創設し、公用地の先行取得を行う。今年度は、先行取得に向け基金積立を行った。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	57,000				
	(b)予算現額	57,000				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	57,000				
	B.執行済額	57,000				
	うち交付金充当額	45,600				
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	100.0%				
	予算の状況の説明	平成25年12月議会において北中城村特定駐留軍用地内土地取得事業基金条例を制定し、計画していた事業内容はすべて実施し、業務を遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度
		基金条例の制定	目標	基金条例の制定	()	()
		実績	基金条例の制定			
	基金の積立	目標	(基金の積立 57,000千円)	()	()	()
		実績	57,000千円積立			
達成状況説明	キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業に57,000千円の基金積立を行うとともに、基金条例及び基金管理規定の制定を行った。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
			基金条例の制定 基金の積み立て	目標	()	条例制定 57,000千円積立	()
		実績		条例制定 57,000千円積立			
	[参考指標]	目標	()	(-)	()	()	()
		実績		-			
進捗状況説明	・キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業に係る取得予定面積の約15%にあたる、57,000千円の基金積立を行った。 ・次年度以降の基金積立額として、平成26年度:114,000千円、平成27年度:114,000千円、平成28年度:38,000千円、平成29年度:38,000千円を予定している。						

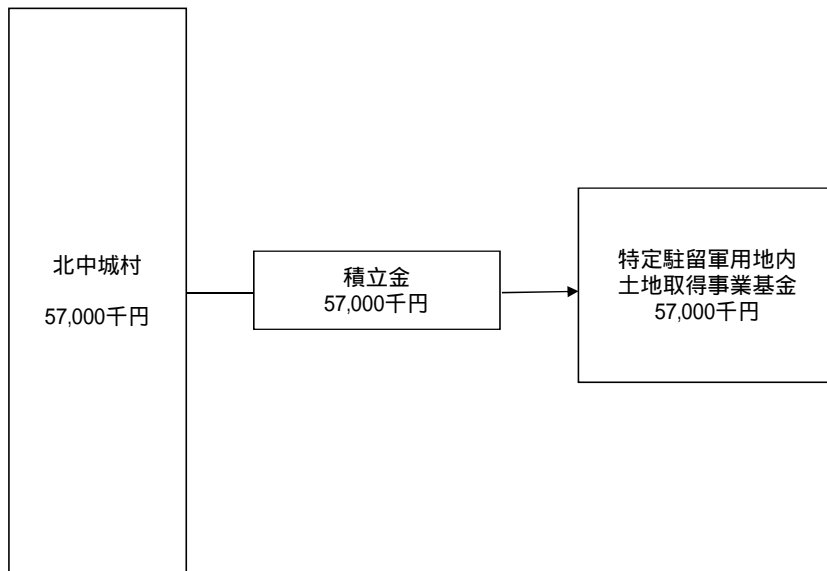
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年4月に発表された統合計画において、当該地区は平成36年度又はそれ以降の返還と示されたが、地権者においては、平成8年度のSACO最終報告(平成19年度末返還予定)から2度返還時期を延長された感覚があり、跡地利用に対する意識の低下が懸念される。 当該地区の跡地利用について、平成15年度から沖縄市と北中城村共同で取り組んできており、平成26年度実施予定の特定跡地の見通し及び先行取得に係る業務についても、引き続き両市村連携していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年12月末に行った先行取得に係る地権者説明会(参加者20名)において、参加者の半数が、土地を売りたい意向の地権者であったことから、地権者意識向上のため、跡地の見通しや先行取得制度説明を丁寧に行う必要がある。 当該地区は沖縄市・北中城村をまたぐ地区であるとともに、都市計画区域も市村境界で異なる。これまで、両市村において都市計画の手続き等、事務的な手続きを具体的に協議していないことから、見通しの策定及び先行取得の事務を進めるとともに、より具体的な情報共有・交換を行い連携する必要がある。

今後の取り組み方針

・特定事業の見通しを策定、公表し、特定駐留軍用地内の土地の先行取得(平成29年度までを予定)を行うことにより、円滑な跡地利用推進に努める。
 ・両市村及び異なる都市計画区域にまたがる事務手続きについて、返還前に課題を解決するような取り組みを両市村で継続して取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
57,000	57,000	45,600	11,400	



資金の流 れ、 点 検 評 価 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 予算規模は用地取得に要する経費を算定・計上したものであり適正な規模であった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用サポートセンター事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章3-(10)-ア	
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 -2	
事業内容	<p>活力ある地域づくりを目指し、高い水準で推移している失業率の改善を図るため、若者や退職期を迎えた団塊の世代の再就職希望対応など、雇用サポートセンターでの継続した雇用支援を実施した。</p>						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)	5,207	2,364				
		5,207	2,364				
		0	0				
		-	-				
	B.執行済額		4,139	2,251			
	うち交付金充当額		3,310	1,800			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		79.5%	95.2%			
	予算の状況の説明		不要額113千円については勤務日数による残であり、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況					
		25年度	26年度	27年度	28年度		
	登録企業の開拓	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	求職者のマナー等指導実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	事業活動の周知拡大	目標	(周知拡大)	()	()	()	
実績		周知拡大					
達成状況説明	<p>・登録事業者は53件と増えており、近隣市町村からの登録が伸びている。 ・若年層へは「履歴書の書き方」「面接への服装」「面接マナー」などを常に指導しながら相談業務を行った。また、70代の就職決定も1件あり、高齢者のマッチングは難しいものの情報の範囲を広げることで可能性が広がるのが分かった。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	失業者のマッチング人数:24人 (H23:0人)	目標	()	(10人)	(24人)	()	()
		実績		7人	27人		
	新規求人数:150件 (H23:0人)	目標	()	(100件)	(150件)	()	()
		実績		105件	112件		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	<p>・本年度は53件の新規企業登録と112件の新規求人に対し、27人を就職に繋げた。 ・マッチングについては目標値を達成できたが、新規求人数については150件の登録目標に対して112件と下回ったものの、前年度の繰り越し求人88件を含めると200件と求人は潜在的にある。</p>						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・失業者のマッチングについては個人の要望条件が強く、採用に繋がらない場合が多いが、要望を少し下げること就職に繋がることもあることがわかった。 ・求人募集する企業からは「資格」「実務経験」を重視する企業も多く、このことからマッチングできない場合も多い。成果目標とはしていないものの、電話や窓口での相談も多く、就職に関するものから職業訓練、生活苦などの相談もあり、求職登録者以外の家族からの相談も多くある。その際には専門機関や役場担当窓口へ案内するなどを行っている。 ・若年層については社会に対する不安もあり、家族を含めて相談することで就業に対する意識を高めることも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチングについては、窓口での相談も効果を上げているが、求職者本人の就業意欲に左右されることから、本人の要望条件を満たすよう各関係機関の細かな情報提供が必要である。 ・若年層には就業意識の低さが顕著であり、職業訓練などの情報も収集し提供する必要がある。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークの求人情報(PDFデータ)を毎日更新し、要望する相談者へ提供しており、今後も続けていく。 ・役場ホームページを通じて求人・求職登録、閲覧ができるようにシステムを導入しているが、活用が低迷している。利用率を上げるため周知、広報に努める。 ・ハローワーク、近隣有料職業紹介所、派遣会社、シルバー人材センター、福祉保健所などと情報交換を今後も行っていく。 		

資金の流れ					
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	2,251	2,251	1,800	451	
<pre> graph LR A[北中城村 2,251千円] --> B[委託料 2,251千円] B --> C[雇用支援員委託料 2,251千円] </pre>					

資金の流 れ、費 目 ・ 使 途 の 流 れ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託員1名の継続採用で就業サポート業務をスムーズに実施できている。 ・事業内容については村の規模とみあっている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4 - 沖縄戦戦後復興調査事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(2)-ウ
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	- 12

事業内容
 沖縄戦終戦～復帰までの復興の様子を記録化するため、対象者への聞き取り調査や、関連資料の整理(新聞記事収集、聞き取りテープデジタル化)を行った。

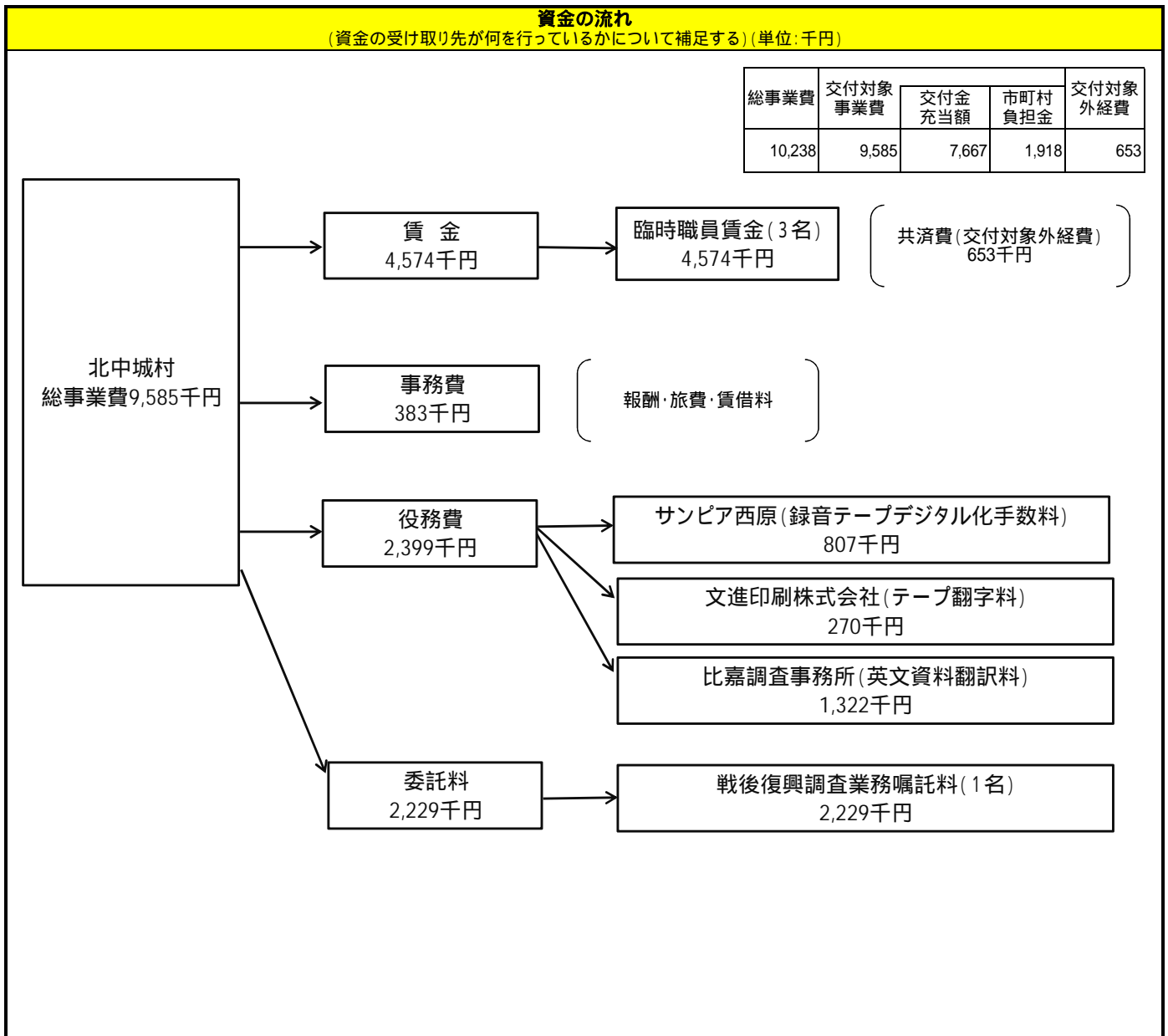
実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	6,838	15,950			
	(b)予算現額	6,838	15,950			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)	6,838	15,950			
	B.執行済額	5,206	9,585			
	うち交付金充当額	4,164	7,667			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	76.1%	60.1%			
	予算の状況の説明	不用額が生じているのは、業者発注資料(プリント写真・ネガデジタル化等)を精査した結果、事業対象外と判断される資料が多く、発注を見送ったことが主な要因である。				

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度
		新聞記事収集 5カ年分 聞き取り調査 3自治会 資料のデジタル化	目標	新聞記事収集5ヶ年分 聞き取り調査3自治会 資料のデジタル化	()	()
	実績	新聞記事収集10.6ヶ年分 聞き取り調査2自治会 資料のデジタル化				
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	・新聞記事収集については、順調に進めることができた。 ・聞き取り調査については、対象自治会との調整がつかず2件のみの実施となった。 ・資料のデジタル化については、業者発注前の精査の結果、事業対象外と判断される資料が多く、発注を見送ったため、目標に至らなかった。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
			目標	()	()	()	()
			実績	新聞記事収集5ヶ年分 聞き取り調査3自治会 聞き取り調査テープデジタル化 1,000本 写真資料デジタル化 1,000枚 村役場保管資料収集デジタル化 5件	新聞記事収集10.6ヶ年分 聞き取り調査2自治会 聞き取り調査テープデジタル化 258本 写真資料デジタル化 0枚 村役場保管資料収集デジタル化 20件		
進捗状況説明	・新聞記事収集については、順調に進めることができた。 ・聞き取り調査については、対象自治会との調整がつかず2件のみの実施となった。 ・資料のデジタル化については、業者発注前の精査の結果、事業対象外と判断される資料が多く、発注を見送ったため、目標に至らなかった。						

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業では、自治会・対象者への聞き取り調査を計画しているが、バックデータとなる県内2紙からの村関係記事の抽出・整理作業に時間を取られている。 ・平成25年度では1紙10年6ヶ月分(1959年～1970年)までの抽出作業を終えたが、残りの1紙については、未着手で2年間の時間を要する見込みである。 また、業者発注資料に関しても、精査の結果、事業対象外と判断されるものが多い。 	資料収集によるバックデータの作成が想定以上の時間を要する点や、デジタル化等対象資料の選別・把握が不十分であり、交付金事業としての効果といった観点などから事業計画または事業内容そのものを抜本的に見直す必要がある。
	今後の取り組み方針	
交付金事業としては平成25年度で廃止。本事業で得た成果は本村の戦後復興の様子をまとめた資料集の作成などに活用する。		



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・各業者とは複数社見積りにより最低価格の提示者と契約しており妥当だったと考えている。 ・予算規模は複数業者から見積もりを徴した上で、最低価格を予算計上しているため適正な規模になっていると考える。 ・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものが等について、額の確定時において支出に関する書類を確認の結果適正であった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	地域ブランド構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
	担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 -1-(6)	
事業内容	産業振興、担い手育成を図ることを目指し、農水産物資源を活かし付加価値を高めるための北中城村独自のブランド化に向けた商品開発を行い、商品選定委員会で選定された特産品の販売拡大や県外物産フェアへの出店を行う事業。25年度は商品・ロゴデザインの開発と地域特産品販売所の建設を主に取り組んだ。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	19,920	-	19,800		
		(b)予算現額	35,152	-	29,700		
		(c)増減額(b-a)	15,232	-	9,900		
		(d)繰越額	-	25,232	-		
		A.計(b+d)	35,152	25,232	29,700		
	B.執行済額		9,919	25,007	27,488		
	うち交付金充当額		7,935		21,990		
	次年度繰越額		25,232				
	執行率(%) (B/A)		28.2%	99.1%	92.6%		
予算の状況の説明		不要額2,212千円については、委託費、備品購入費の入札執行残であり、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ブランディング推進委員会開催数:5回	目標	(委員会:4回)	(委員会:5回)	()	()	
		実績	全体委員会:4回 ワーキング委員会3回	委員会:4回 作業部会12回			
	県外商談・PR活動回数:4回	目標	(PR活動:2回)	(PR活動4回)	()	()	
		実績	PR活動:県外2回 県内先進地視察1回	PR活動:県外3回、 県内1回			
	新商品の開発37アイテム以上	目標	(-)	(新商品:3品)	()	()	
実績		-	新商品:7品				
アンテナショップ什器類(19品目)の整備	目標	(-)	(什器類:19品目)	()	()		
	実績	-	什器類:19品目				
達成状況説明	目標であったブランディング委員会5回は4回とし、1回は本事業の観光の部分について琉球大学と意見交換会に変更。新商品の開発については、12回の作業部会を開催し、目標3商品に対して7商品を開発できた。 ・PR活動については福岡商工会議所の主催する観光マッチング事業へ参加し、県外4社、海外2社の旅行社と商談を実施。PRブースにおいては北中城村をDVDで紹介した。物産フェアについては開発した商品を沖縄の産業まつり(奥武山公園)、ニッポン全国物産展(池袋サンシャインシティ)で販売し、売り上げ目標40万に対し、84.6万円と目標値の2倍を達成した。 ・アンテナショップにおける、什器類19品目の導入について、目標どおり設置することができ、全体として、活動目標のほとんどを達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	販路拡大の為の県外物産フェア参加(10品目販売モニター調査、販売額目標40万円)	目標	()	(-)	(物産フェア:40万円 10品目販売モニター調査)	()	()
		実績	/	-	物産フェア:84.6万円 8品目販売モニター調査		/
	量販店等への取引契約(チェーン展開する店舗1以上)	目標	()	(-)	(契約:1社)	()	()
		実績	/	-	契約:0社		/
	新商品の開発3アイテム以上	目標	()	(-)	(新商品:3品)	()	()
		実績	/	-	新商品:7品		/
アンテナショップ什器類(19品目)の整備	目標	()	(-)	(什器:19品目)	()	()	
	実績	/	-	什器:19品目		/	
進捗状況説明	平成24年度からの繰り越し事業であった地域特産品販売所を8月、「北中城村産品アンテナショップ」と称して設置。POSレジシステムの導入や什器類を設置し、村内産品の販売体制を整え、農業者・漁業者・商業者が組織する地産地消出品者協議会を立ち上げて販売拠点として活用する村民参加型の販売所とすることができた。 ・これまで北中城村にはなかったブランドロゴについて、村の観光の核である中城城跡をモチーフにしたデザインが仕上がりと、「世界遺産を歩く沖縄・北中城」のロゴタイプと一緒にブランドイメージに合ったロゴとして今後の活用に期待できる。商品開発については物産展へ参加したところ、売り上げ目標の2倍を達成し、ブランドロゴを活用して販売拡大へ繋げていく。 ・観光商品の開発についてはモニターツアーを実施し、問題点を洗い出すことができ、対応窓口の必要性が浮かび上がってきた。						

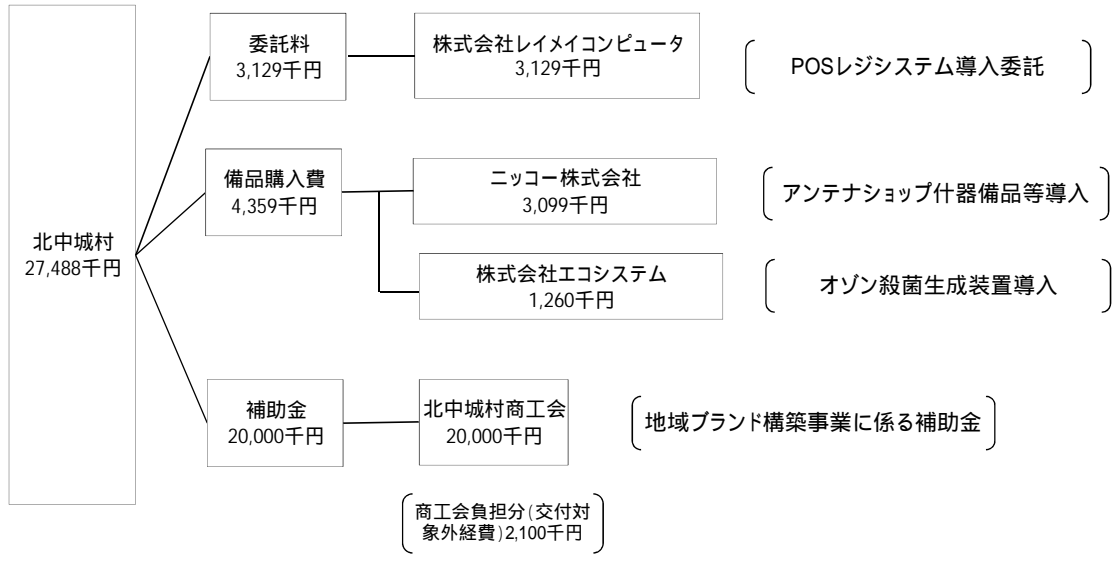
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 量販店との販売取引を目標としていた商品開発については、事業所の製造能力及びパッケージロット(製品単位)と賞味期限の問題についてクリアできないことが判明し、今後の課題となった。 農産物等のブランド構築に加え、村の風光明媚な名勝や旧跡等の活用や、健康長寿を融合した観光資源の活用が求められており、観光客が訪れて楽しめる観光ブランドの開発に取り組む必要がある。 北中城ブランドロゴについては、予想以上の出来栄で、今後の分ブランド戦略に大いに役立つものと期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 量販店と販売取引における商品開発に係る設備投資については、事業所の負担を避けて性急なものせず、商品の改良等を検討するとともに、事業所への販売戦略などのサポートを強化する必要がある。 地域の資産・資源を活用した観光ブランド開発と、更なる観光客誘客を図るためには、村内宿泊施設や旅行社とのタイアップが必要不可欠であり、民間事業所等のノウハウ及び協力を仰ぐ必要がある。 ブランドロゴについてはロゴの使用規定など、効果的な運用を含めて商品選定委員会を立ち上げ、ブランド戦略に沿った活用が必要である。

今後の取り組み方針

・新商品の販売については、村アンテナショップでの販売を継続しつつ、量販店との販売取引のための商品改良等の取り組みを行う。
 ・観光ブランド開発については、本村が「女性平均寿命日本一」であり、全国から視察が多くなりつつある中で、この「健康長寿ブランド」と地域の名勝・旧跡等の資源を融合させた観光ブランド構築と観光客誘客のため、村内宿泊施設や旅行会社等の民間事業所と連携を図って行く。
 ・ブランドロゴについて、一目で「北中城ブランド」とわかるような商品パッケージへの貼り付けを視野に入れ、その効果的な運用と活用について検討する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
29,588	27,488	21,990	5,498	2,100



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 各産業分野が加入する商工会自らが地域活性化に手を挙げており、商工会を中心とすることで地域事業者が安心して事業に関わることができることから、活性化に対する補助とした。 予算等は計画に沿って支出されており、規模も見合っている。 受益者負担も10%以上あり、妥当である。 使途も目的に即しており、必要なものとなっている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	軟弱野菜生産支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
	担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成25年度～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 -1-(6)	
事業内容	軟弱野菜の安定生産、産地形成に取り組む為、耐候性野菜栽培施設(パイプハウス)を8棟(29.64a)設置した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	29,700				
		(b)予算現額	29,700				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	29,700				
	B.執行済額		22,640				
	うち交付金充当額		18,112				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		76.2%				
予算の状況の説明		土地が確保できた圃場については、効率的な運用を図る為に連棟を設置した(8棟のうち、2連棟×3、3連棟×2)為、予算執行減となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	耐候性野菜栽培施設の設置(30a)	目標	(30a)	()	()	()	
		実績	29.64a				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	軟弱野菜の安定生産・供給を図る為、北中城村ベジ・グリーン生産組合へ補助金を交付し、耐候性野菜栽培施設8棟(29.64a)を導入した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	耐候性野菜栽培施設の設置(30a)	目標	()	(30a)	()	()	()
		実績		29.64a			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	耐候性野菜栽培施設の導入により、露地栽培時に影響を受けていた天候や病害虫等に左右されない生産体制が確立したことで、ネギを中心とした軟弱野菜の安定生産及び供給を図ることができた。					

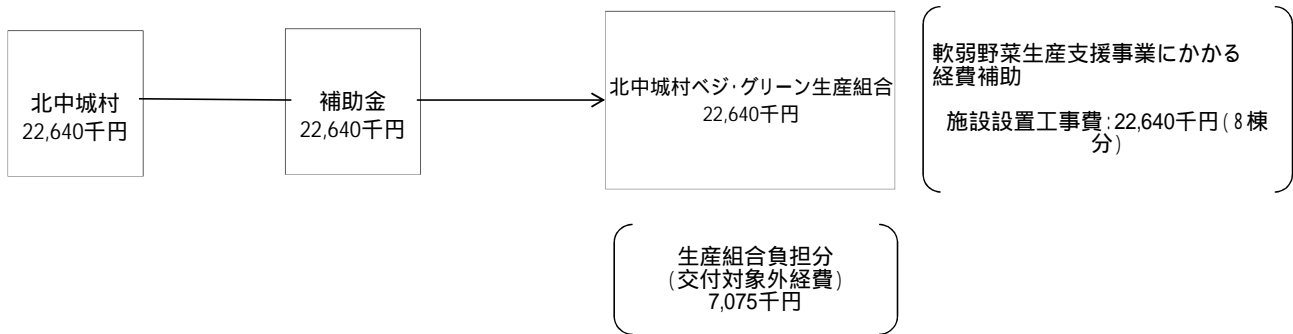
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	担い手となる農業者の高齢化や、担い手農家、認定農業者等への効率的な土地の集積がなされていないことにより、補助対象となる農家、団体が少ない為、補助先の選定に苦慮した。	・青年就農給付金制度や認定農業者制度の推進等による担い手農業者の育成及び、担い手農家への土地の集積体制の構築等を沖縄総合事務局、沖縄県、中部農業改良普及センター等と連携し実施する必要がある。 ・施設導入により安定生産体制が整いつつあるが、効率的な作付け、輪作体系の確立、安定した出荷体制の確保の為の検討会等を実施する必要がある。

今後の取り組み方針

関係機関と連携した担い手農家の育成、土地の集積を図り、補助対象者の増加を図る。補助対象者においては、施設導入による効率的な軟弱野菜の生産、出荷体制構築の実現に向けた検討会や視察研修等を積極的に実施するよう指導し、設置後は定期的に現状調査を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
29,715	22,640	18,112	4,528	7,075



資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・補助対象者は、本村の人・農地プランに掲載された担い手農業者が主体となって設立された生産組合であり、青年農業者の安定生産体制の向上による所得向上が期待できる。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・施設設置工事については、指名競争入札により、低価格で落札した事業所による工事施工となっており、支出は妥当であると思慮する。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者負担としては、補助金割合が80%と効率である為、受益者負担分は妥当であると思慮するが、資金運営が乏しい新規就農者や青年農業者等の支援の為に、他制度と連携させた負担分の軽減策等を検討する必要がある。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	農業経営改善支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-工	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 -1-(6)	
事業内容	生産性の向上と後継者不足及び耕作放棄地の解消を目指し、農業者を支援するために、農業経営改善支援員を二人派遣した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,252	4,252			
		(b)予算現額	2,208	4,252			
		(c)増減額(b-a)	2,044	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		2,208	4,252			
	B.執行済額		1,227	2,332			
	うち交付金充当額		981	1,865			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		55.6%	54.8%			
予算の状況の説明		当初予定していた経営改善支援員配置2名のうち、求人情報を出すものの1名を配置することができなかったため執行率が低くなった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	農家への経営指導及び技術支援の実施(40件)	目標	(40件)	(40件)	()	()	
		実績	40件	40件			
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	地産地消を通して生産性の向上と、農家へ助言による経営指導を実施した。しかし、耕作放棄地の減少は著しい為、今後担い手育成も必要である。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	農家への経営指導及び技術支援の実施(40件)	目標	()	(40件)	(40件)	()	()
		実績		40件	40件		
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	農家へ経営指導を実施し、生産の向上が行えたため、今後は生産体制を整えながら、耕作放棄地の解消を目指す。						

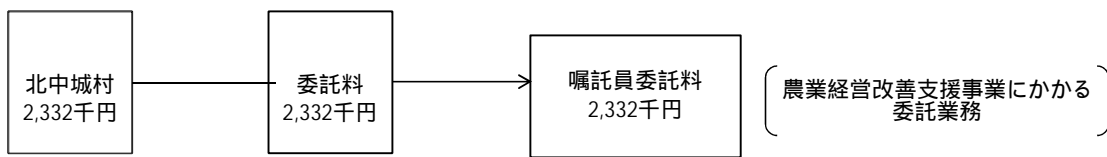
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	後継者不足により、耕作放棄地が多い中現在の農家への経営改善指導や担い手への確保が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地解消のための行政支援の施策として、農地地権者と耕作者との仲介役として円滑な農地提供等を行うための、(仮称)農地バンクを立ち上げを検討する。 同一作物が消費量を超えて、生産されるため、流通の確保および生産体制の構築を図る必要がある。

今後の取り組み方針

農業担い手の確保と育成をめざし、本村に適した経済的にメリットのある適性作目に関する調査を実施するとともに、(仮称)農地バンクの立ち上げによる耕作放棄地の解消と、地産地消の拡大展開のための農家経営改善指導を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,332	2,332	1,865	467	



資金の 用途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営改善支援員としての知識や能力を選考判断とし採用された者は農家へ経営指導を行った為、妥当といえる。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	再資源化ストックヤード活用推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア	
担当部課名	住民生活課		事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進
事業内容	焼却回避によるゴミ減量化を目指し、青草、伐採木の堆肥化・再資源化を図るとともに、堆肥化された植物ゴミを農業へ再活用し、循環型農業の推進を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	38,845	-	7,009		
		(b)予算現額	82,430	-	7,009		
		(c)増減額(b-a)	43,585	-	0		
		(d)繰越額	-	26,208	-		
		A.計(b+d)	82,430	26,208	7,009		
	B.執行済額		56,080	26,047	6,995		
	うち交付金充当額		44,864	20,837	5,596		
	次年度繰越額		26,208				
	執行率(%) (B/A)		68.0%	99.4%	99.8%		
予算の状況の説明		不要額14千円については、賃金の勤務日数によるものであり、当初計画していた業務内容はすべて遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	青草・伐採木等のゴミ減量化	目標	青草・伐採木等のゴミ減量化	()	()	()	
		実績	青草・伐採木等のゴミ減量化				
	堆肥利用促進	目標	(堆肥利用促進)	()	()	()	
		実績	堆肥利用促進				
達成状況説明	平成26年1月に再資源化ストックヤード施設が完成し、地域から搬入された青草・伐採木等(約50t)を再資源化するためのチップ処理を行うことができた。 堆肥利用促進のため、チップ処理されたものにEM菌、糖蜜、米ぬかを混ぜ発酵させ養生し、今年度においては少量ではあるが再資源化することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	青草・伐採木等のゴミ減量化:対前年比25%減	目標	()	(25%減)	()	()	()
		実績			10%減		
	再資源化による堆肥量:15t (H24度:堆肥量:0t)	目標	()	(15t)	()	()	()
		実績			10t		
進捗状況説明	平成25年11月末に再資源化ストックヤード施設が完成したこと、本施設完成前からストックされていた伐採木等の処理を先に行う必要があったため、目標のゴミ減量化を達成することができなかった。 ストックされていた植物ゴミについては、日々チップ処理していることから、今年度以降からゴミ減量化及び堆肥化の効果がわかるものと思われる。						

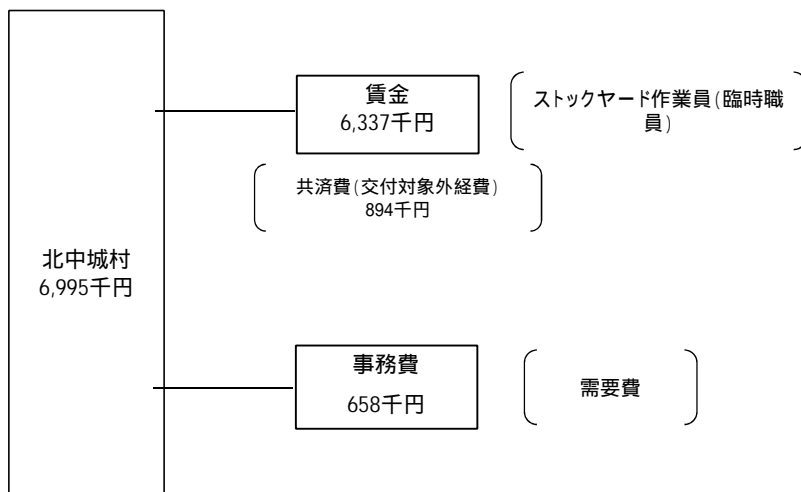
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 再資源化された堆肥について、循環型農業を推進していくため、堆肥化されたチップ等についての販売方法等について具体的に決めておらず、利用と普及に向けた広報も含め検討する必要がある。 平成24年度、25年度において、ストックヤード施設整備や再処理に係る備品をそろえ、植物ゴミの再資源化(堆肥化)を行っているが、今後の施設及び備品の維持管理について、施設の運営方法も踏まえ検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 破碎処理されるチップは、道路等の植栽帯に敷くことで、雑草の増殖を抑える効果もあることから、堆肥利用以外の使い道について様々な角度から検討する必要がある。 当該施設の運営・管理については、今後整備される公営墓地が隣接しており、その公営墓地と併せて運営・管理できるよう指定管理者も含め検討する必要がある。

今後の取り組み方針

一括交付金事業としては、今年度で終了となるが、青草・伐採木等の植物ゴミの減量について、一般家庭からでるゴミ減量化と併せて、村全体で3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進するため、引き続き住民の意識・生活環境の向上を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,889	6,995	5,596	1,399	894



資金の流 れ、費 目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 嘱託員4名の継続採用で再資源化業務をスムーズに実施できている。 事業内容については村の規模とみあっている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-	災害時要援護者避難支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	福祉課	事業実施(予定)年度	平成24年度～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 -10-(2)	
事業内容	観光客を含む災害時要援護者の円滑な避難を図るため、避難支援事業及び災害時の要援護者情報整備とシステム導入を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,985	11,000			
		(b)予算現額	3,985	11,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		3,985	11,000			
	B.執行済額		3,320	8,597			
	うち交付金充当額		2,655	6,877			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		83.3%	78.2%			
予算の状況の説明		不用額が2,403千円発生しているが、委託費の実績による執行残と嘱託職員採用の遅れによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	災害時要援護者避難支援システム導入	目標	(システム導入)	()	()	()	
		実績	システム導入				
	災害時要援護者個別支援台帳の整備	目標	(台帳の整備)	()	()	()	
		実績	台帳の整備				
達成状況説明	・災害時要援護者避難支援システムの導入を行うことができた。 ・災害時要援護者避難支援システムへの台帳の整備を行い、災害対策基本法改正の平成26年4月施行による本格稼働を前に、手上げ式による要援護者の登録を先行して実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	災害時要援護者避難支援システム導入	目標	()	システム導入	()	()	()
		実績		システム導入			
	災害時要援護者個別支援計画の作成:10件	目標	()	(10件)	()	()	()
		実績		5件			
	進捗状況説明	・災害時要援護者避難支援システムの導入を行うことができた。 ・個別支援計画については、コーディネーター確保の遅れがあり、目標の10件には届かなかったが、平成26年2月より実施しすることができ、支援を希望する対象者住民の個別支援計画の作成に着手できた。					

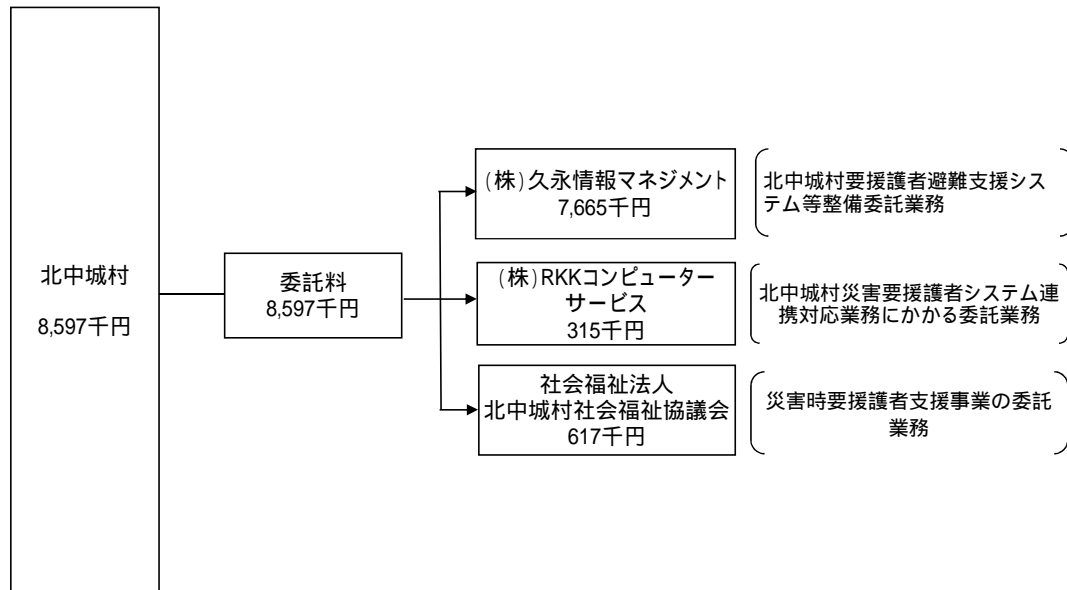
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	要援護者事業については、村社会福祉協議会の委託により、財政面だけでなく、今後の事業推進にも大いに期待できる。事業コーディネーターの確保の遅れから事業開始が平成26年2月となったが、嘱託専門職(社会福祉士)を配置できたことから、今後の事業継続・推進に期待できる。	要援護者支援対策の推進には、住民の意識向上や支援者の拡大を図る必要がある。民生委員や自治会だけでなく、村内で未だ設立されていない自主防災組織等の立ち上げや育成を行うなど、地域力の向上を図る必要がある。

今後の取り組み方針

要援護者避難支援事業については、要援護者の登録数の増加だけでなく、支援体制の構築に向けた地域防災力の向上が必要となる。他事業とのタイアップ等横断的な連携に努め事業を継続実施していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,597	8,597	6,877	1,720	



資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明
金の流れ、費目・		支出先の選定方法は妥当か。	・委託先選定については、実績等勘案した上で選定しており、妥当であると考え。 ・予算規模や費目・使途が事業目的に則し、妥当であると考え。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-	全村植物公苑化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	花と緑あふれる県土形成 -10-(1)	
事業内容	本村まちづくりの基本目標の1つである「全村植物公苑づくり」のもと、村全体を植物公苑とみため、観光拠点周辺の重点的な地域緑化を行った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)		6,054	9,497			
			6,054	9,497			
			0	0			
			-	-			
			6,054	9,497			
		B.執行済額	5,491	8,349			
		うち交付金充当額	4,392	6,679			
		次年度繰越額	0	0			
		執行率(%) (B/A)	90.7%	87.9%			
	予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。なお、不要額1,148千円については臨時職員の勤務日数によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度		
	公共、観光施設及び村内主要道路の 景観美化・緑化の実施:2,000㎡	目標	(1,600㎡)	(2,000㎡)	()	()	
		実績	1,637㎡	2,251㎡			
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	村内の主要道路の景観美化に取り組み、花壇等も造り歩行者の目を楽しませる事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	村内主要道路等の美化・ 緑化率:100%(2,000㎡)	目標	()	100% (2,000㎡)	()	()	()
		実績		112% (2,251㎡)			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	村内の主要道路及び観光拠点周辺の景観美化に遂行する事ができた。しかし、花や除草の維持管理を行う人手が不足しているため自治会の方々との連携も図らなければならない。						

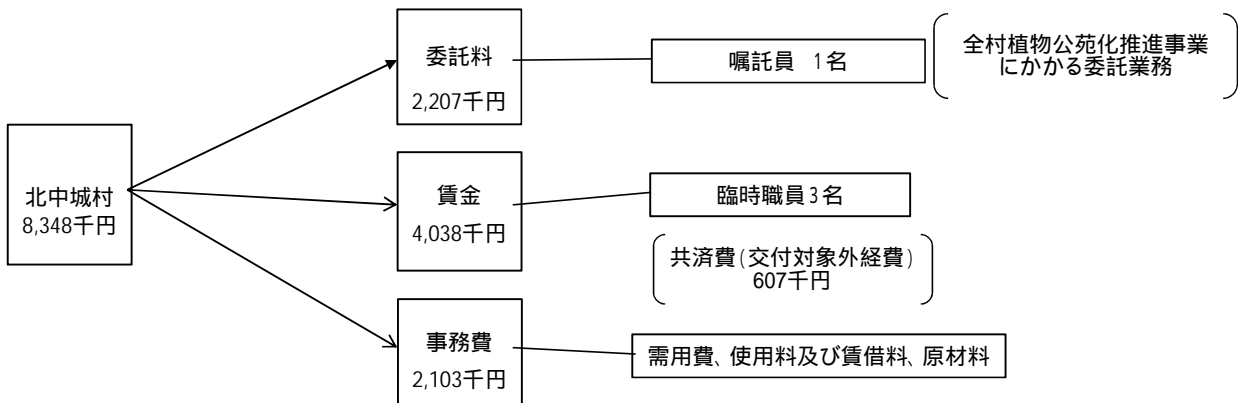
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>景観美化・緑化や観光拠点周辺を継続的に維持管理する必要がある為、自治会や地域住民と連携を図る必要がある。</p>	<p>主要道路の景観美化や緑化に対して、維持管理を継続的に行う為にも自治会とも情報交換し連携を図っていきながら、維持管理しやすい花木等を模索しないとイケない。</p>

今後の取り組み方針

前年度と同様に、村内の観光拠点周辺や主要道路の景観美化・緑化の事業展開をし、継続的な維持管理等に努め北中城村に観光客を誘客する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,956	8,348	6,679	1,669	607



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・植栽及び伐採において専門知識を有した嘱託員1名、臨時職員 3名で業務実施する事ができた。 ・費目・使途については、事業目的に即し適正であると考えらる。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-	公共施設等エコアクション推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
	担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～34年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進 -10-(1)	
事業内容	北中城村全体でCO2削減に向けたエコアクションの先駆けとして、公共施設においてクリーンエネルギー（太陽光）の先行導入と照明機器等の省エネルギー化のためのLEDへの切り替え、エコアクションプログラムの策定に向けた基礎調査を行った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	24年度(繰越)	25年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	66,792	-	37,933		
		(b)予算現額	66,792	-	24,083		
		(c)増減額(b-a)	0	-	13,850		
		(d)繰越額	-	56,851	-		
	A.計(b+d)		66,792	56,851	24,083		
	B.執行済額		9,941	29,394	21,529		
	うち交付金充当額		7,953	23,515	17,223		
	次年度繰越額		56,851				
	執行率(%) (B/A)		14.9%	51.7%	89.4%		
予算の状況の説明		エコアクションプログラム策定から基礎調査へ、全体的な計画見直しにより今年度の電気自動車購入の見直しをしたことから減額・不要額が生じた。また、事業については計画的に執行し、適正に遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・村道への街灯LED設置: L=400m	目標	(400m)	()	()	()	
		実績	400m				
・太陽光発電システム設置: 1ヶ所	目標	(1ヶ所)	()	()	()		
	実績	1ヶ所					
達成状況説明	・本村におけるエネルギー消費量、太陽光設置世帯数、公共施設の太陽光設置状況等の情報を収集し、エネルギー消費量の将来推計、現状の把握と課題の抽出を行った。 ・再生可能エネルギーの導入状況と導入の可能性について調査を行った。 ・村道仲順比嘉線に街灯LEDを5基(L=400m)設置するとともに、和仁屋公民館太陽光発電システム(定格出力10kW)導入した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・村道への街灯LED設置: L=400m	目標	()	(400m)	()	()	()
		実績		400m			
	・太陽光発電システム設置: 1ヶ所	目標	()	(1ヶ所)	()	()	()
実績			1ヶ所				
進捗状況説明	・今回の基礎調査では、本村におけるエネルギー消費量の傾向や、住宅・公共施設における太陽光発電の導入数等を調査するとともに、今後のエネルギー消費等の将来推計を算出し、現況の課題と導入可能性についてまとめることができた。今後はこの結果をもとに、エコアクションプログラム(実施計画)を策定する。 ・街灯LED設置については、今年度に引き続き村道仲順比嘉線沿いに設置延長する予定である。 ・太陽光発電システムにおいては、各地区公民館に計画どおり設置できしており、平成26年度においては、大城公民館に設置予定である。						

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 今回の調査では、新エネルギー導入の取組状況について検討しており、その中で本村に設置しているBDF燃料設備は、採算の困難等の理由から、現時点において稼働できていない状況にある。 和仁屋公民館については、景観条例の対象地域外であることから、設置費用の抑制及び工期短縮のため、太陽光発電システムの基本的な設置場所の屋根に取り付けをおこなった。しかし、次年度においては、景観条例の対象区域内の地区公民館に設置予定であることから、景観に配慮した太陽光パネルの設置場所について検討する必要がある。 村道仲順比嘉線に街灯LEDを5基設置した。防犯、安全に役にたっている。また、夜間観光散策も可能になった。また、LEDを使用することにより電気料金を抑えることができランニングコスト削減にもつながった。CO2削減もでき環境にも配慮できた。 	<ul style="list-style-type: none"> BDF燃料設備を含め、新エネルギーの導入と普及を推進していくためには、村以外のさまざまな主体との連携が必要であることから、村全体で取り組むエコアクションについて協議会を設置し、検討していく必要がある。 大城公民館への太陽光発電システム設置については、地元住民等と協議を行いながら、景観に配慮したパネル設置等について検討していく必要がある。 村道仲順比嘉線は、アワセゴルフ場開発地へとつながる主要村道であり、今後、夜間の観光客の歩行も多くなると予想されることから、平成27年度以降においても残りの延長(L=1,200m)についても、街灯LED設置を行う必要がある。

今後の取り組み方針

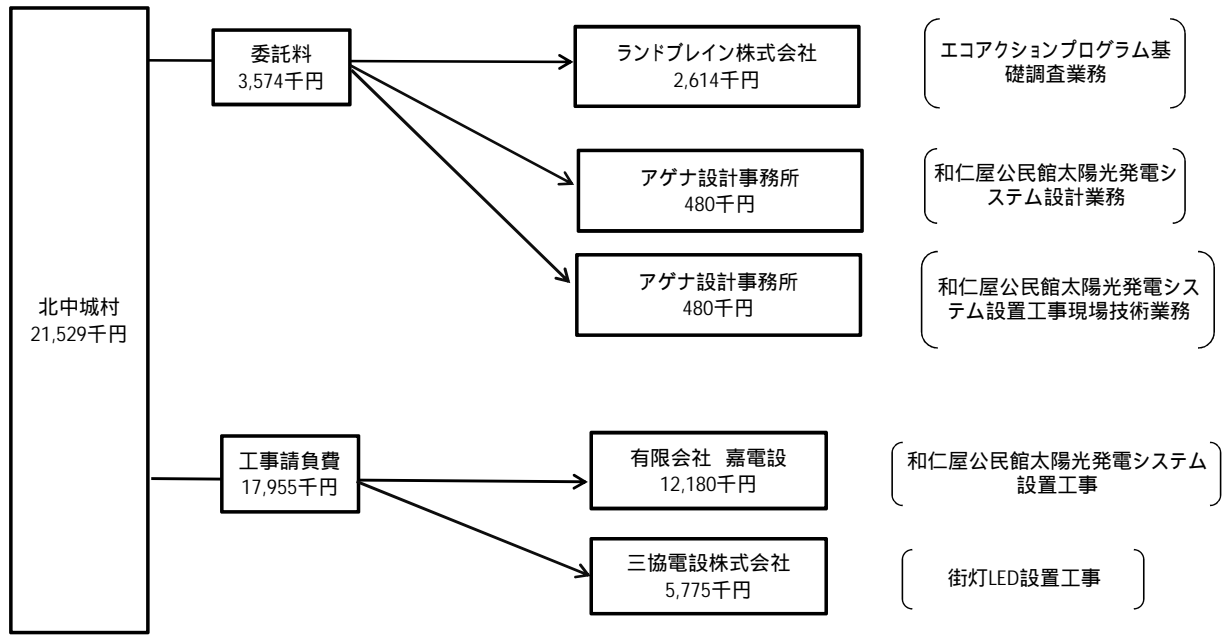
今回の基礎調査からエコアクションプログラムを策定していくために、BDF燃料設備を含めた新エネルギーの導入と普及に対する位置づけの明確化と優先順位づけを改めて行っていく。また導入普及の具体化において、新エネルギーの知識の蓄積や地域配信等、さまざまな視点において連携が必要となってくることから、庁内をはじめとする組織体制づくりの強化を図る検討を行っていく。

平成26年度には大城公民館に太陽光発電システムを設置予定である。大城公民館周辺は景観条例により屋根の上には設置不可のため地上での設置を予定している。

街灯LED設置については、年次的に設置を行う予定であり、村道仲順比嘉線におけるアワセゴルフ場地区までの約1,200mの区間について設置する予定である。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,529	21,529	17,223	4,306	



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託業者とは指名競争入札を経て契約しており妥当であったと考える。(500千円未満を除く。) 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を確認の結果、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8 - 総合英会話指導支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進 -3-(1)

事業内容
国際性豊かな人材育成を目指し、外国人や英会話能力の優れた講師による生きた英語に触れることにより、「総合的な学習の時間」や「特別活動」などの時間において、国際理解教育の一環として、指導員による英会話指導を行う。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a)当初予算額	4,212	6,552		
予算の状況	(b)予算現額	4,212	6,552			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)	4,212	6,552			
B.執行済額		4,110	6,330			
うち交付金充当額		3,288	5,064			
次年度繰越額		0	0			
執行率(%) (B/A)		97.6%	96.6%			
予算の状況の説明		不要額222千円は、勤務日数によるものであり、計画的な予算執行に努め、業務はすべて遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
	英会話指導員配置数 小学校:1人 中学校:1人 幼小兼務:1人	目標	(3人)	(3人)	()	()
		実績	3人	3人		
		目標	()	()	()	()
		実績				
達成状況説明	村内にある公立小中学校全てに指導員を配置することができ、昨年度の水準を維持しつつ継続的な事業実施が図られた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
			英会話指導員配置数 小学校:1人 中学校:1人 幼小兼務:1人	目標	(3人)	(3人)
	実績		3人	3人		
	英語検定合格率	目標	(-)	(53%)	()	(60%)
		実績		51%	58%	
進捗状況説明	英語を母国語とする指導員の生きた英語に触れることで外国語に対する関心が増し、成果目標を達成することができた。					

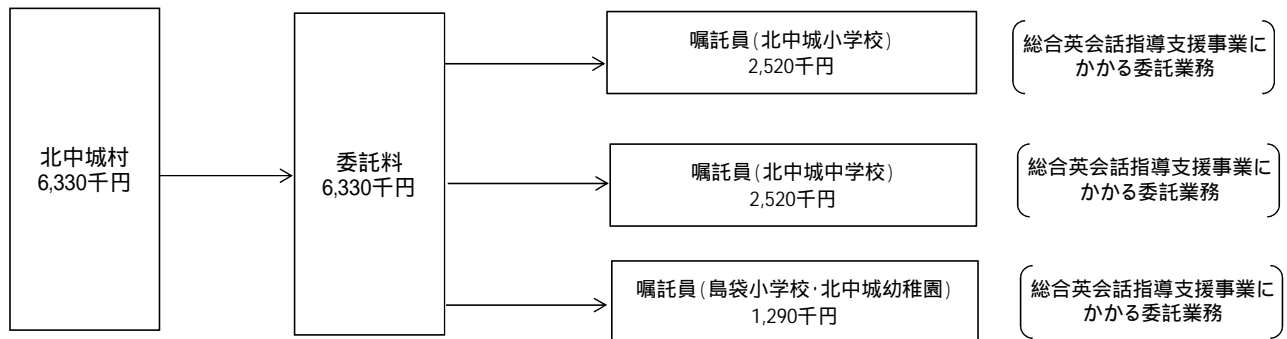
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	外国人の指導員を採用することで、ネイティブスピーカーとして生の英語の発音や表現力を体感することができ、児童生徒の目の輝きと表情や態度から外国語の向上に多大な貢献を果たしているものと考察できるが、一方で、指導員自身が日本語に不慣れなため、教師とのコミュニケーションにおいて困難な面があり、指導員をうまく活用するための体制づくりが課題となっている。	各学校の英語担当教諭と指導員が一堂に会し、授業の持ち方等に関する意見交換や意思疎通を図る場を設け、授業改善に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

小・中学校の英語担当教諭とALTとの研修会を開催し、相互の授業力の向上と効果的なALTの活用方法について検討を重ね、子ども達の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの能力のさらなる向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

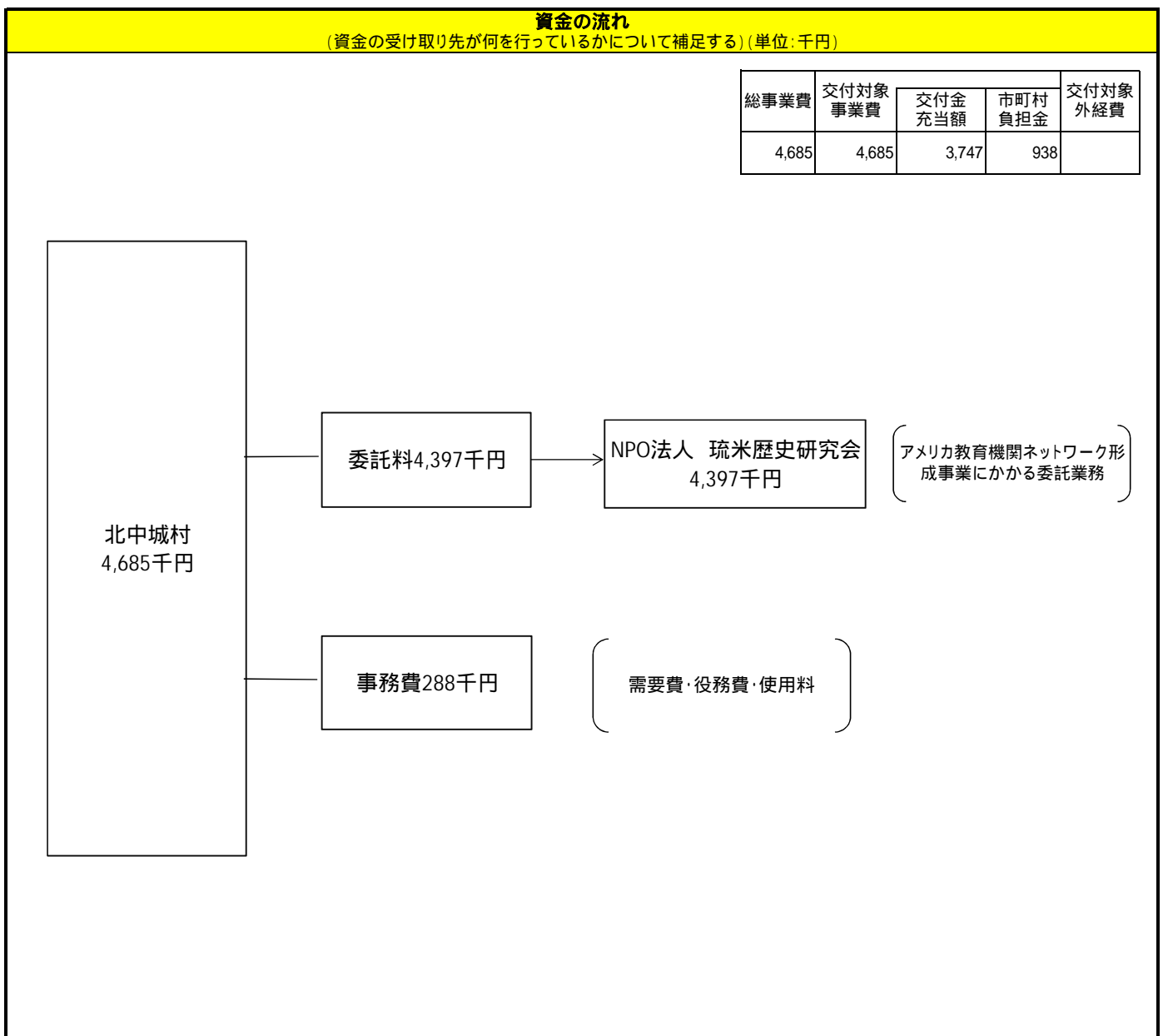
総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,330	6,330	5,064	1,266	



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・指導員は英語を母国語とする外国人を優先的に採用。面接による選考を行い、英会話能力や指導力などを判断しているため妥当であると考えている。 ・費目・使途及び予算規模については事業目的達成の観点から必要であり、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8 -	アメリカ教育機関ネットワーク形成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進 -3-(1)	
事業内容	米国の教育機関(ワシントン州立大学)とインターネット講座ができるWEBシステムを導入し、村内の小・中学生を対象に(定員制)に、米国学教員による集中講座を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,206	4,755			
		(b)予算現額	4,318	4,755			
		(c)増減額(b-a)	112	-			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		4,318	4,755			
	B.執行済額		3,697	4,685			
	うち交付金充当額		2,957	3,747			
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		85.6%	98.5%			
予算の状況の説明		不要額70千円は施設使用料(冷房使用料)によるものであり、事業は計画的に執行にし、遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	小学生講座:64回(前期32回、後期32回)	目標	(小学校講座30回)	(小学生講座64回)	()	()	
		実績	小学校講座29回	小学生講座64回			
	中学生講座:64回(前期32回、後期32回)	目標	(中学校講座30回)	(中学校講座64回)	()	()	
		実績	中学校講座29回	中学校講座64回			
達成状況説明	児童生徒の英語力向上を図るとともに、本村の国際性に富む人材育成に寄与することを目的に、小学生・中学生クラス前期と後期で各32回の講座を開催することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	受講生人数 前期:20人、後期:20人	目標	()	(講座30回)	前期:20人 後期:20人	()	()
		実績			講座29回	前期:18人 後期:16人	
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	講座開催2年目においては、前年度と比較して2倍の講座を開催し、講座内容の充実を図ることができた。更なるレベルの高い英語力の習得により、コミュニケーションスキルの向上と、留学に必要なTOEFLスコアのアップが期待される。					

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・学校行事等または個人的理由により講座に参加できない生徒において、授業の遅れが生じていたが、本年度からは欠席者に宿題を課し、授業の遅れを取り戻す取り組みを行うことで、カリキュラムの遅れを補うことができた。</p> <p>・受講者のレベル分け(2グループ)を行い、英語力が劣っているグループに対しては一時間超の補助授業を設け、上級グループに追いつけるように努めている。</p>	<p>・講座の欠席に関しては、必ず休校の報告を義務付けるなど、生徒の受講意識の向上のための工夫及びアフターサポートが必要である。</p> <p>・学校行事等で欠席となる生徒に対して宿題を課しているが、その点検等の補習に関して、こちら側の先生を増員するなどの対処が必要である。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>今後も事業継続実施に向けて、受講生に目標を高く持たせるよう高いレベルでの講座を開催し、英語力の向上を図るとともに、将来は英語圏への大学進学を目指す人材作りに取り組む。</p>		



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・米国大学とのネットを介しての講座は、自治体として初めての試みであり、その分野において唯一実績のあるNPO法人と委託先として選定しており妥当であると考えます。</p> <p>・予算規模及び費目・使途については、事業目的に即し適正であると考えます。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8 -	学校ICT活用指導支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進 -3-(1)	
事業内容	コンピュータ操作指導やITに関する専門的な知識向上のために、指導員を配置するとともに、操作指導・インターネットモラルなどのIT教育の推進を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)		10,983	1,641			
			10,983	1,641			
			0	0			
			-	-			
		10,983	1,641				
	B.執行済額	9,619	1,588				
	うち交付金充当額	7,694	1,270				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	87.6%	96.8%				
予算の状況の説明	不要額53千円については、臨時職員の勤務日数によるものであり、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	PCインストラクター支援員配置数:1人	目標	(1人)	(1人)	()	()	
		実績	1人	1人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	継続してPCインストラクターを派遣することで、児童生徒に対するIT教育の推進や学校現場におけるICT活用支援が図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
	PCインストラクター支援員配置数:1人	目標	()	(1人)	(1人)	()	(1人)
		実績		1人	1人		
	PCインストラクター支援員による授業時間:678時間/年	目標	()	(-)	(678時間)	()	(1,216時間)
		実績		-	395時間		
	進捗状況説明	成果目標の達成率は79%と概ね達成しているものの、指導員が授業に配置された時間が目標値の58%にとどまっている状況である。児童生徒に対する情報教育の向上が求められる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>指導員の知識やスキルは十分であるが、それらを利用して授業を展開することに慣れていない。 また、指導員が授業に関する教材作成や事前準備などに時間を多く割かれ、直接的に教員の授業支援に関わる機会が少なかった。</p>	<p>指導員が、ICT等を用いた事例の授業を学び、授業力の向上を図る必要がある。また、情報担当者などを通して、授業での指導員の活用促進を呼びかけ行う。</p>
今後の取り組み方針		
<p>校務におけるICT支援は一定の効果을あげているが、児童生徒に対してまだ十分に還元されているとはいえないことから、指導員が授業支援にもっと関わることで情報教育の更なる向上を図る。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	1,813	1,588	1,270	318	225
<pre> graph LR A[北中城村 1,588千円] --> B[資金 1,588千円] B --- C["ICT支援員 (臨時職員) 1名"] D["共済費(交付対象外経費) 225千円"] </pre>					

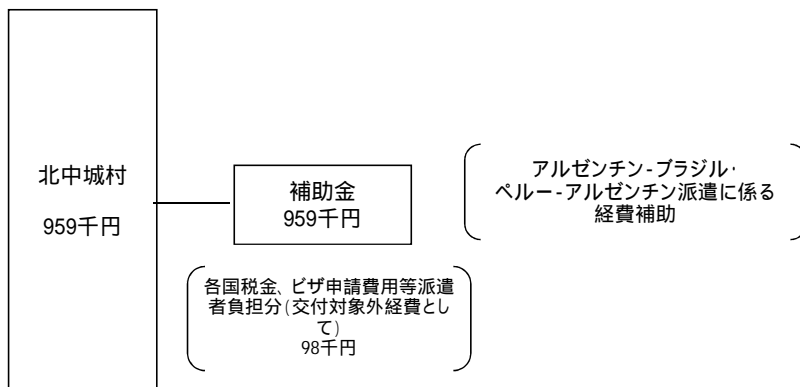
資金の流 れ、費目 ・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・指導員は面接により選考を行い、PC操作やITに関する知識などを判断し採用したため妥当であると考え。 ・費用及び用途については、事業の目的に即し適正であったと考える。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-	南米3カ国青年研修生派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	総務課		事業実施（予定）年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進 -3-(1)	
事業内容	友好親善と国際交流の推進を図るため、本村出身者が多くいる南米3カ国（ペルー・アルゼンチン・ブラジル）に研修生を派遣した。また、北中城村の文化・伝統等を発信と将来を担う人材ネットワークの形成を図り、国内外の観光客誘客強化のための人材育成を図った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,712	2,246			
		(b)予算現額	3,712	2,246			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		3,712	2,246			
	B.執行済額		3,192	959			
	うち交付金充当額		2,553	767			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（％）(B/A)		86.0%	42.7%			
予算の状況の説明		不要額1,287千円については、1名分の研修先を3カ国から2カ国へと変更したことによるものである。（2名の研修生をアルゼンチン・ペルーとアルゼンチン・ブラジルの振り分けた）					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	派遣者数2名	目標	（ 2人 ）	（ 2人 ）	（ ）	（ ）	
		実績	2人	2人			
	研修発表会1回	目標	（ - ）	（ 1回 ）	（ ）	（ ）	
		実績	-	1回			
達成状況説明	研修生を2名派遣を行い、各国村人会と北中城村を結び付ける人材の育成を行った。また、3月帰国後研修発表会を開催し、より多くの関係者に現地での状況や研修内容の共有を図った。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	派遣者数2名	目標	（ 2人 ）	（ 2人 ）	（ 2人 ）	（ ）	（ ）
		実績		2人	2人		
	研修発表会1回	目標	（ ）	（ - ）	（ 1回 ）	（ ）	（ ）
		実績		-	1回		
	進捗状況説明	平成25年度は目標どおり事業を達成した。事業実施により南米3カ国の村人会との交流を行い、移住時から世代交代が進み沖縄が薄れていく若い世代と、移住を知らない沖縄の若い世代とが世界と北中城村を結ぶ絆の形成を図ることができた。今後交流を果たした研修生同士の組織を形成し、移住した世界の北中城村民と継続的につながるような取り組みを検討したい。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	派遣期間に限られる中、継続的交流及び多文化理解を深めるため、今後も派遣国を絞り、滞在期間の確保を行う必要がある。受入国の長期受入の体制を強化し、研修後も継続的な交流が行なわれるようにしなければならない。	本村で行われている南米からの受入及び派遣の事業を結び付け、それぞれの研修期間中に互いの国での交流を行う。
今後の取り組み方針		
派遣する研修生(日本人)の現地での文化交流研修を充実させるため、8月から11月にかけて受け入れる南米研修生(外国人)との多言語交流を行い、基本的なあいさつや習慣を習得したうえで派遣を行い、スムーズな文化交流研修が実施できるよう取り組みを行う。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

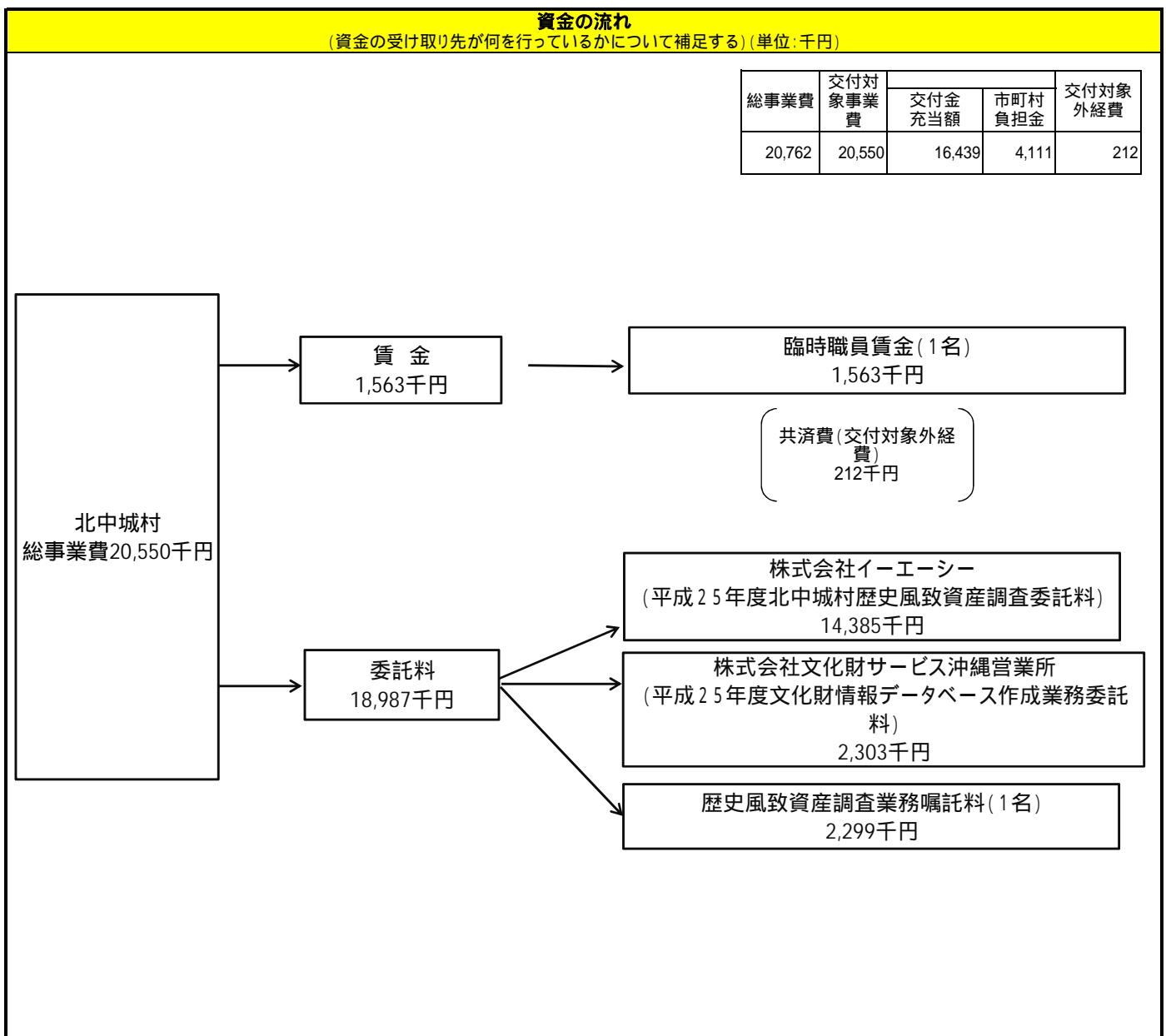
総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
1,057	959	767	192	98



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・応募者全員の面接を行い、それぞれの目的や今後の貢献方針を確認し、研修生の選定を行った。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・滞在期間の延長を目指しそれぞれのコースに分かれ3か国との交流を図ったことで、移動に係る費用の削減と滞在期間の長期化を図った。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	・使途については、渡航及び保険に係る費用のみとなつての
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	で、事業目的に必要な費用となっている。

市町村名	北中城村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-	琉球歴史風致資産調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24年度～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり -3-(2)	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本村独自の歴史を活かしたまちづくりに向けて、村内に所在する旧跡・文化財等の歴史風致資産の現況を把握するための現地調査(所見作成・写真等記録作成、位置測量等)を実施した。 ・歴史風致を形成する民俗祭祀行事について、現地調査(所見・映像記録等作成)を実施した。 ・村収蔵資料(民具等)の情報発信のための基礎作業として、台帳整理を行い、重要資料については実測図作成・材質分析を実施した。 						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)		17,420	22,226			
			17,420	22,226			
			0	0			
			-	-			
			17,420	22,226			
	B.執行済額	16,748	20,550				
	うち交付金充当額	13,398	16,439				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	96.1%	92.5%				
予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。不用額は入札執行残等である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・現地調査箇所数 200箇所 ・民俗祭祀行事調査 5件 ・村収蔵民具等図化・材質分析 10件	目標	現地調査:200件 祭祀調査:5件 図化・分析:10件	()	()	()	
		実績	現地調査:250件 祭祀調査:24件 図化・分析:12件				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査については、村内の3字(安谷屋・荻道・大城)の歴史風致資産の現況を把握することができた。 ・民俗祭祀行事調査については、村内12字の祭祀を記録することができた。 ・村収蔵民具等については、図化(5件)と材質分析(7件)を合わせて12件実施し、資料化することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	・現地調査箇所数 200箇所 ・民俗祭祀行事調査 5件 ・村収蔵民具等図化・材質分析 10件 ・過年度分補足調査 100件	目標	()	現地調査:200件 祭祀調査:5件 図化分析:10件 補足調査:100件	()	()	()
		実績		現地調査:250件 祭祀調査:24件 図化分析:12件 補足調査:59件			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査については、平成25年度の達成状況はほぼ当初の予定通りで、今後も村内の他の字の調査を継続して実施していく。 ・民俗祭祀行事調査については、予定件数を大幅に上回る件数を実施することができた。 ・村収蔵民具等図化については、当初予定に2件追加して実施し完了した。今後は、これらのデータを盛り込んだ台帳のデジタル化・公開に向けた準備を進める。 ・現地調査の過年度分補足調査については、民俗祭祀行事調査を優先させたため、当初の目標に至らなかった。 					

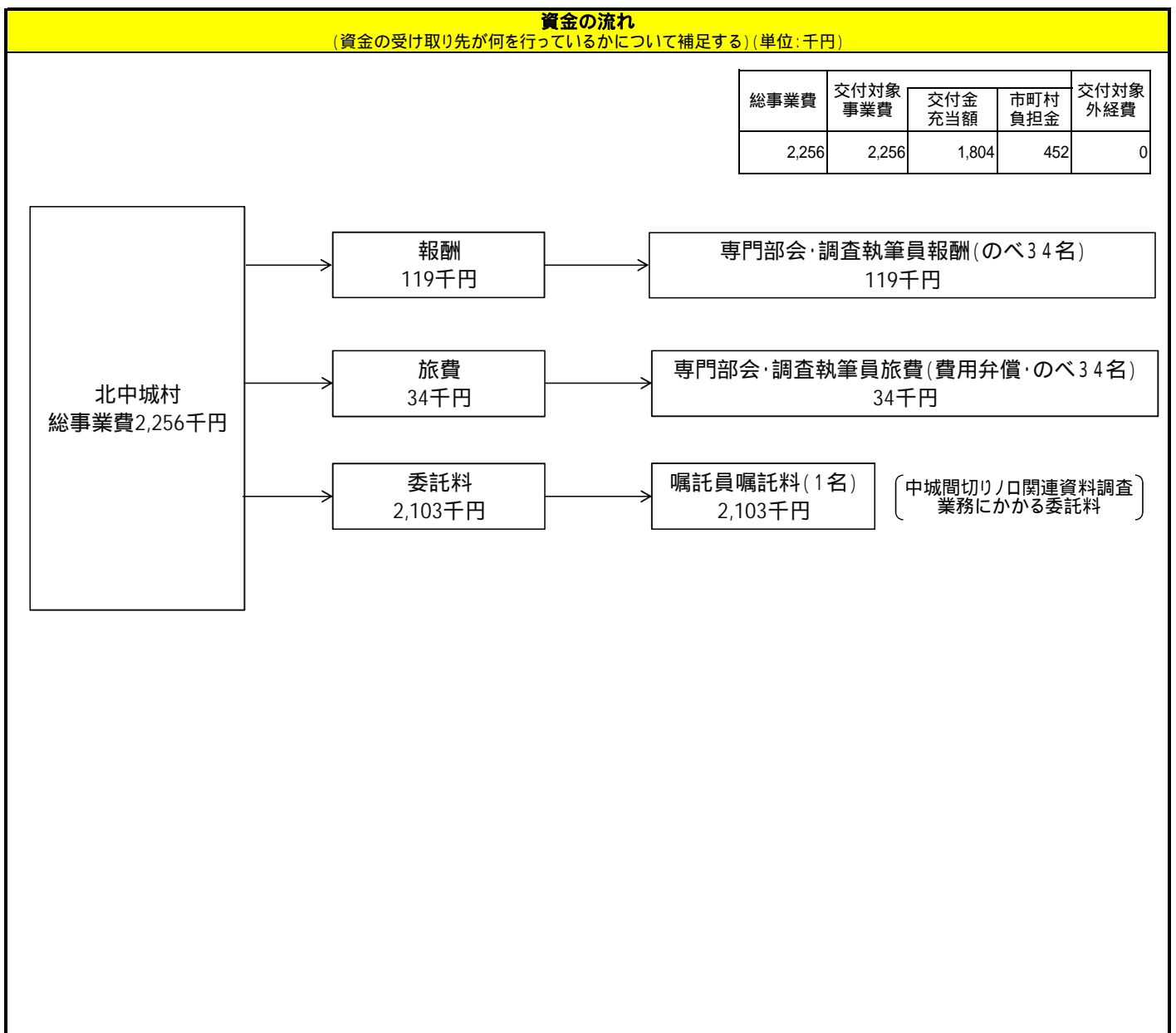
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成25年度は、平成24年度より開始している悉皆調査(業者委託)と、新たに祭祀調査及び過年度現地調査分の補足調査(文献資料情報の調査カードへの追記)を事務局直営の専門嘱託員1名体制により並行して実施した。</p> <p>そのうち祭祀調査(事務局直営分)について、村内各字で実施されている祭祀の件数・日程を事前にチェックし現地調査をスケジュールリングしたが、節日(祭祀を執り行う日)が字同士重複するケースが多く、複数担当により分担して調査にあたるなど効率的な方法を検討する必要がある。</p>	<p>民俗祭祀行事調査及び補足調査のいずれも件数・作業量が膨大であり、補足調査に関しては今後も処理件数が増加してくる見込みである。</p> <p>現状の体制では全体の事業完了予定スケジュールに大きな支障をきたすことから、専門の嘱託員1名体制から2名体制へ増員し、両調査を効率よく並行して実施する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>平成26年度も引き続き、業者委託による悉皆調査(現地調査)を実施するとともに、過年度調査分の補足調査と民俗祭祀行事調査に関しては、事務局直営の専門嘱託員2名体制で並行して推進していく。</p>		



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者とは指名競争入札を経て契約しており妥当だったとかがえている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は複数業者から委託仕様書にのっとった見積もりを徴した上で、最低価格を予算計上したいるので適正な規模になっていると考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を確認の結果適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-	中城間切ノロ関係資料集作成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	生涯学習課		事業実施(予定)年度	平成24年度～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり -3-(2)	
事業内容	鳥袋ノロらが活動していたとされる近世～近代の中城間切(当時の行政単位で現在の北中城村・中城村)に焦点を絞り、ノロが執り行った祭祀実態などを明らかにするため、それぞれのノロが管轄した拝所の現地調査や、関連資料の収集・聞き取り調査を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,673	2,456			
		(b)予算現額	1,673	2,456			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	1,673	2,456			
	B.執行済額		1,470	2,256			
	うち交付金充当額		1,176	1,804			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		87.9%	91.9%			
予算の状況の説明		予算額に不用額が生じているのは、専門部会委員・調査執筆員の現地調査欠席等によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	ノロ関連現地調査 3箇所	目標	(ノロ関連現地調査 3箇所)	()	()	()	
		実績	ノロ関連現地調査 11箇所(件)				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	ノロに関連する拝所・祭祀状況の現地調査は、順調に達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	ノロ関連現地調査 3箇所	目標	()	ノロ関連現地調査 3箇所	()	()	()
		実績		ノロ関連現地調査 11箇所(件)			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	ノロに関連する拝所・祭祀状況の現地調査は、順調に達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	平成25年度は、活動目標・成果目標をノロ関連拝所等の現地調査件数として、取り組んだが、関連するその他の業務についても取組の指標を設定する必要性を感じている。	現地調査と並行して、文献等資料収集・聞き取り調査などを精力的に行っているため、これら関連業務についても指標化が可能なものについては、目標値を設定し、事業進捗等の現状分析ができるようにする。
今後の取り組み方針		
平成26年度以降の事業実施あたっては、現地調査件数の他、聞き取り調査件数などの数値的な目標を設定する。		



資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者とは指名競争入札を経て契約しており妥当だったとかがえている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は複数業者から委託仕様書にのっとった見積もりを徴した上で、最低価格を予算計上したいので適正な規模になっていると考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を確認の結果適正であった。
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

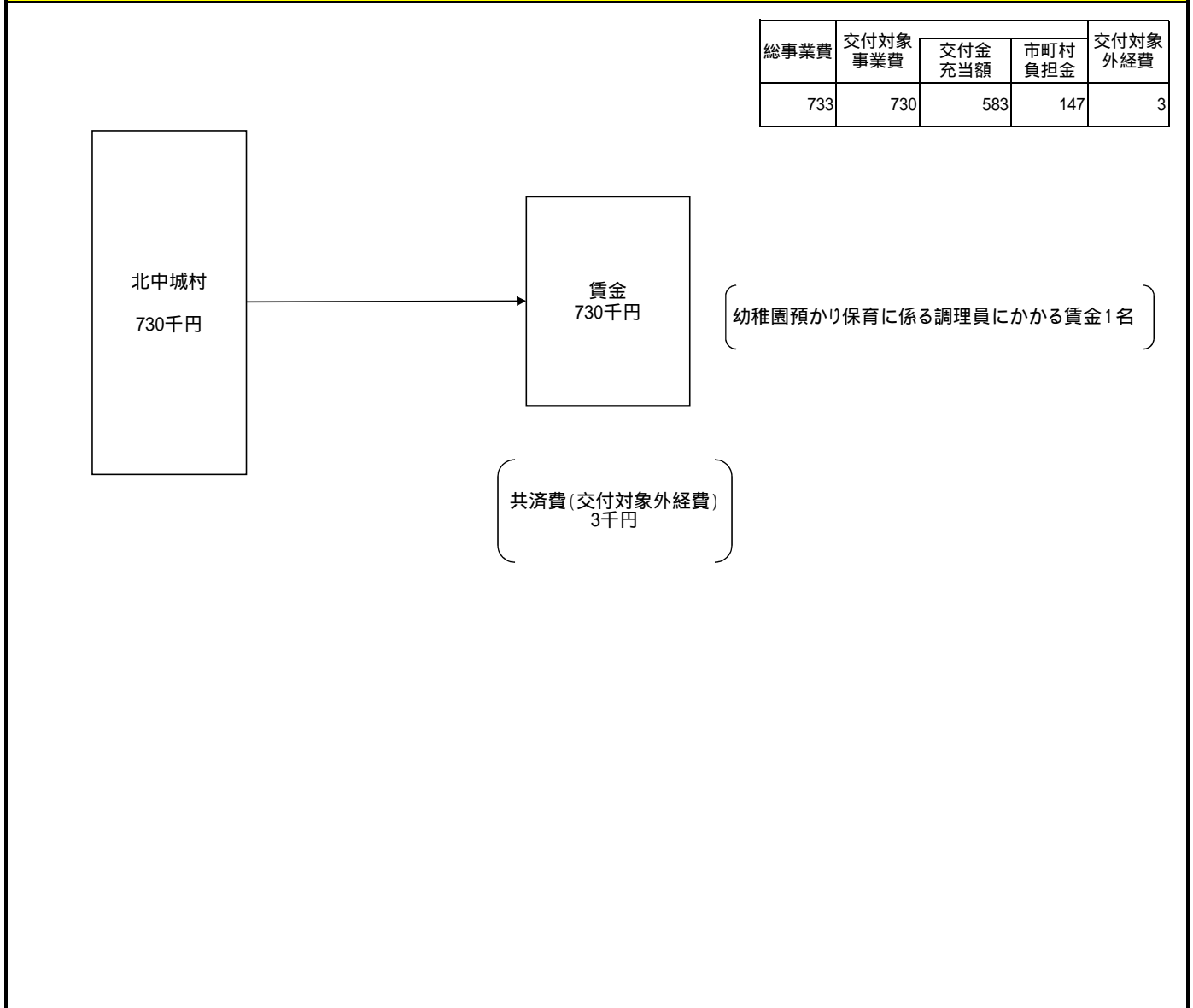
市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10 -	幼稚園預かり保育給食対応事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	学校給食共同調理場	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 -4	
事業内容	幼稚園預かり保育(午後)において、小、中学校と同様の学校給食を提供するため、賃金調理員の配置するとともに、幼稚園園児への食育指導を行った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	608	931			
		(b)予算現額	608	931			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		608	931			
	B.執行済額		453	730			
	うち交付金充当額		362	583			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		74.5%	78.4%			
予算の状況の説明		給食を提供しない日があり、201千円の不要となった。 日数は143日分の賃金を予定していたが、幼稚園の行事や振替休日、冬休み、春休みの給食を提供しない日があり、112日となった。					
活動目標(指標)及び達成状況			達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	調理員配置数:1名	目標	(1人)	(1人)	()	()	
		実績	1人	1人			
	食育事業:3回	目標	(-)	(3回)	()	()	
		実績	-	3回			
達成状況説明	村の給食調理場の給食を利用することによって、小学校との連携や栄養教諭の食育指導等が可能となった。また地域の方が生産した地元食材の利用を紹介することで、食に対する関心をさらに深めてもらうこともできた。 活動目標については、当初143日間の調理日数予定で積算していたが、学校の行事・振替休日等で112日の出勤となり約78.4%の執行となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況			基準値 (25年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	預かり保育実施幼稚園への給食提供数:600食/月(50食×3日×4週)	目標	(600食/月)	(600食/月)	(600食/月)	()	()
		実績		328食/月	705食/月		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	当初予定していた1日分の食数50食が65食以上に増え、成果目標を超えた。栄養士による食育教育も行った。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 今後も幼稚園給食を推進していく上での課題として、預かり保育以外の園児に対する食育指導等があげられる。 懸念される問題点として、アレルギー対応についてどのように取り組んでいくのか、協議を行う場を設けるなどの仕組みづくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材を利用(場合によっては園児の親やおじいちゃんが生産している作物)するなど、「給食」に関する関心を今まで以上に持たせることで、園児に食事の大切さをもっと知らせていくことも必要である。 アレルギーを持つ園児等の対応については、全体の給食提供の問題であるので、幼稚園に限らず、小・中学校や保護者を含め、協議検討の場を設定する必要がある。

今後の取り組み方針

今後の取り組みとしては、給食を提供していない園児への食育指導や、懸念されるアレルギー対応について、教育委員会、幼稚園、園医、父母との協議の場を持つことや、給食調理場、農家の仕事を見学してもらうなど、更なる「食」への関心を持ってもらう取り組みを行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 支出先は、公募により募集し、資格、経験等を勘案したうえでの採用であり、妥当と考えている。 受益者との負担関係においても、小・中学校同様、負担分については食材費に充てていることから妥当。 予算規模は損の規則にのっとって事業が行われており、費目も賃金のみと事業目的に必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10-	特別支援教育支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-工
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度	要保護児童やひとり親家庭等への支援
			沖縄振興基本方針該当箇所	-4

事業内容
 村内の幼稚園、小学校、中学校に在籍する園児・児童・生徒のうち、特別に支援を要する子ども達に対し、支援員を配置することで該当児の学校(園)生活における介助及び学習支援等を実施する。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(a)当初予算額	31,057			
	(b)予算現額	29,497				
	(c)増減額(b-a)	1,560				
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	29,497				
	B.執行済額	28,077				
	うち交付金充当額	22,461				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	95.2%				
	予算の状況の説明	不要額1,560千円は、勤務日数や賃金によるものであり、事業として計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
特別支援教育支援員配置数 小学校:10人 中学校:6人 幼稚園:4人	目標	(小学校:10人 中学校:6人 幼稚園:4人)	()	()	()
	実績	小学校:10人 中学校:6人 幼稚園:4人			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	各学校に必要とされる支援員が計画通り配置されたことで、幼児・児童・生徒の学校(園)生活における介助や学習支援が実践され、安心・安全な学校環境づくりが図られた。				

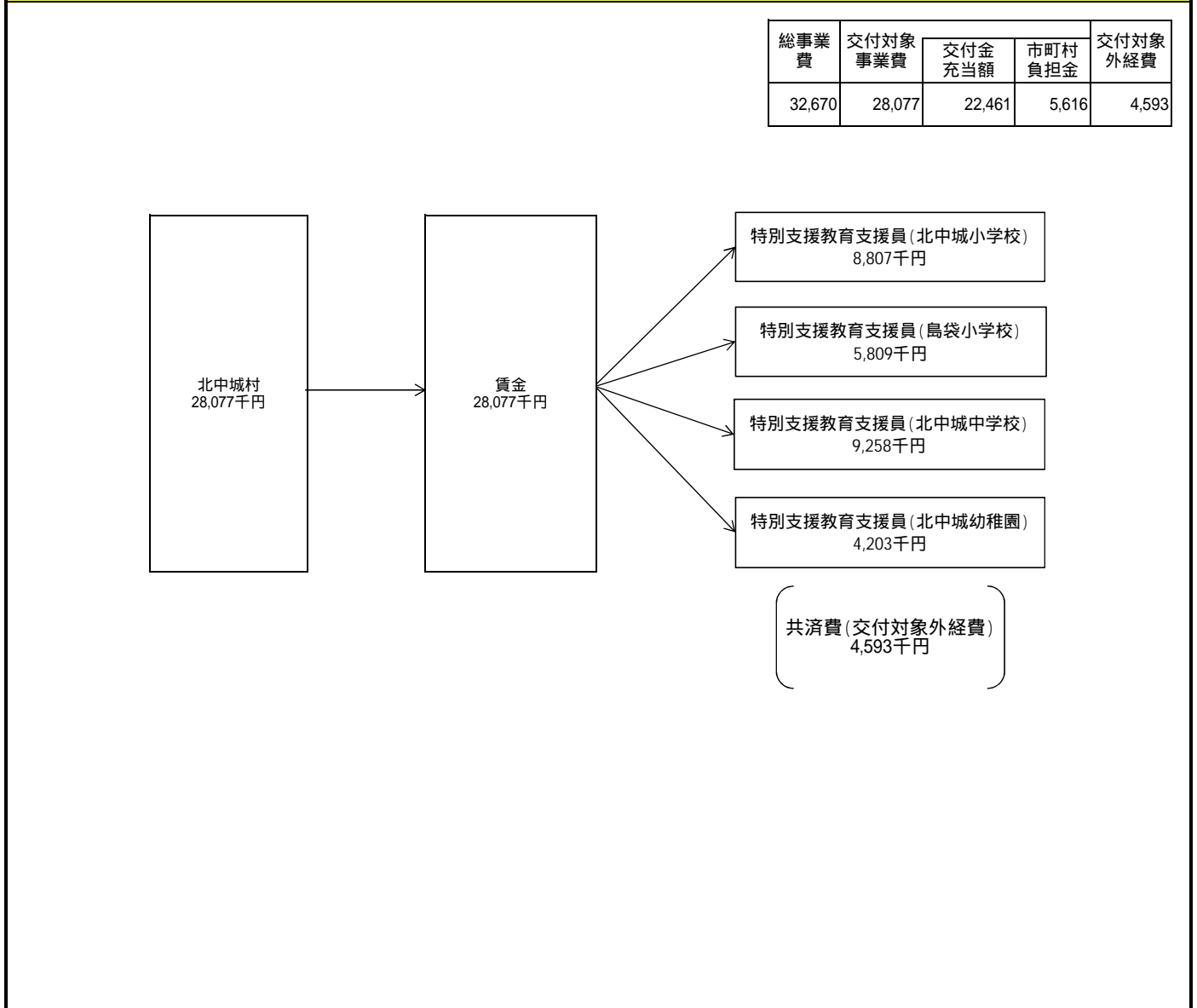
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
			特別支援教育支援員配置数 小学校:10人 中学校:6人 幼稚園:4人	()	(小学校:10人 中学校:6人 幼稚園:4人)	()
配置授業時間数 小学校:820時間 中学校:895時間 幼稚園:734時間	目標	()	小学校:820時間 中学校:895時間 幼稚園:734時間	()	()	()
	実績		小学校:975時間 中学校:828時間 幼稚園:793時間			
進捗状況説明	・小学校及び幼稚園では、支援員の適正配置ときめ細かな支援により、配置数及び配置授業時間数ともに成果目標を上回ったが、中学校では配置数は達成できたものの、支援を要する生徒の状態により授業時間数が減少したことから目標に対して92.5%の達成率となった。 ・全体的な事業の進捗として概ね達成することができた。					

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場の体制は整いつつあるものの、多様化する障害に対応するためにも支援のあり方として、管理職をリーダーとしてすべての教職員が共通理解のもと、特別支援教育の環境を整えていく必要がある。 ・支援員の個々の能力についても、教員免許所持者を優先的に採用し、支援にあたっているものの、特別支援教育に携わる経験が乏しい人材が多いという現状である。教員としての経験を特別支援教育に活かせるような人材育成が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県や関係機関との連携を図ることで、教職員に対し特別支援教育に関する研修への参加を促し、その指導改善を図るとともに、各学校の特別支援教育コーディネーターを中心に独自の研修会を開催し、校内の体制強化に向けて情報交換を実施する必要がある。 ・支援員向けに多様な障害にどう向き合い支援していくか話し合う場を設け、それぞれのスキルアップが必要である。

今後の取り組み方針

支援を必要とする子どもの支援内容はそれぞれ全く異なったものである。そのため、支援員の質の向上と人材の確保は重要である。関係機関との連携や研修会の実施により、常に外部との情報交換やスキルアップを図ることで、村としての質的な向上を目指す。その取り組みとして、教育委員会主催による支援員の研修会の実施と学校ごとの校内研修の充実を行う。


資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員は教員免許所持者を優先的に採用。面接による選考を行い、経験や意欲などを判断しているため妥当であると考える。 ・予算規模、費用及び使途については、事業の目的に即し適正であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	北中城村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11 -	沖縄関係仮戸籍・福岡戸籍等電子化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(5)-イ	
担当部課名	住民生活課	事業実施(予定)年度	平成25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	戦後処理問題の解決 -4	
事業内容	戦災で滅失した戸籍を再製するため作成された仮戸籍申告書や福岡戸籍等の電子化事業を実施し、身分関係を公証する資料として適正に管理保存をする。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,250				
		(b)予算現額	5,250				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	5,250				
	B.執行済額		4,830				
	うち交付金充当額		3,864				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		92.0%				
予算の状況の説明		不要額420千円については、委託契約による入札残であり、計画的な予算執行に努め業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	沖縄関係戸籍や関連する資料の電算化の実施(対象戸籍数約2,000件)	目標	(2,000件)	()	()	()	
		実績	2,027件				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	紙ベースで保管されている仮戸籍申告書、福岡戸籍等の劣化が著しいため、戦後の貴重な戸籍資料をデータで管理保管することにより行政サービスの向上につながった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	沖縄関係戸籍の電子化率100%	目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		100%			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	仮戸籍申告書・福岡戸籍(除籍・仮戸籍)を電子化し、既存の戸籍システムと連動することができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>沖縄関係仮戸籍等は戦後住民の申告に基づき複製され、昭和改製原戸籍・除籍の基となったものであり、データ化及び管理システムの構築を図ることにより、既存の戸籍総合システムと連動でき、関連する戸籍の検索も正確に行うことができるものと考えている。</p> <p>今後、相続手続き等の際、住民の身分関係を公証するにあたり仮戸籍請求の増加が見込まれ、関連する戸籍の検索も容易に行うことができるが、データの取扱い及び安定したシステム管理が課題である。</p>	<p>システムからの証明書交付により住民ニーズに効率よく対応することができるが、個人情報の保護の観点を含め情報漏えい等の事故防止策を十分に検証する必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>電子化による迅速かつ正確な戸籍事務の遂行に努め、安定的・継続的な住民サービスを行う。</p>		

資金の流れ					
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	4,830	4,830	3,864	966	
 <pre> graph LR A[北中城村 4,830千円] --> B[委託料 4,830千円] B --> C[株式会社RKKCSソフト 4,830千円] </pre> <p>(沖縄関係仮戸籍・福岡戸籍等電子化にかかる委託業務)</p>					

資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・既存の戸籍システムを導入している現行業者を選定し、データを円滑に連動することができたため、支出先の選定方法については、妥当であったと考えている。</p> <p>・予算規模、費用及び使途については、事業の目的に即し適正であったと考える。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		